

2.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物の状況

1) 動物の生息の状況

動物の生息の状況を把握するために収集した文献その他の資料を表 2.1.5-1 に示す。

なお、動物相に係る調査対象範囲は成田市、多古町及び芝山町とし、各市町における記録のある動物を抽出した。

表 2.1.5-1 収集した文献その他の資料

No.	文献・資料名
1	「動植物生息調査（第 2 次陸域編）報告書」（平成 16 年 3 月 成田市）
2	「動植物生息調査（第 2 次水辺編）報告書」（平成 15 年 3 月 成田市）
3	「大栄町史－自然編－」（平成 9 年 3 月 大栄町）
4	「（仮称）成田市・富里市新清掃工場整備事業に係る環境影響評価書」（平成 21 年 成田市・富里市）
5	「千葉県の自然誌 本編 6 千葉県の動物 1」（平成 14 年 千葉県）
6	「千葉県動物誌」（平成 11 年 千葉県生物学会編）
7	「千葉県レッドデータブック－動物編（2000年初版）」（平成 12 年 千葉県）
8	「千葉県レッドリスト－動物編（2006年改訂版）」（平成 8 年 千葉県）
9	「千葉県レッドデータブック－動物編（2011年改訂版）」（平成 23 年 千葉県）
10	「生物多様性情報システム－第 2 回動植物分布調査」（昭和 53-55 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
11	「生物多様性情報システム－第 3 回動植物分布調査」（昭和 58-63 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
12	「生物多様性情報システム－第 4 回動植物分布調査」（昭和 63 年-平成 5 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
13	「生物多様性情報システム－第 5 回動植物分布調査」（平成 5-11 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
14	「生物多様性情報システム－第 6 回動植物分布調査」（平成 11-17 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
15	「第 6 回自然環境保全基礎調査 鳥類繁殖分布調査報告書」（平成 16 年 環境省自然環境局 生物多様性センター）
16	「生物多様性情報システム－第 7 回動植物分布調査」（平成 16 年 環境省自然環境局生物多様性センター）

ア. 動物相

動物相の概要を表 2.1.5-2 に示す。

調査対象範囲の3市町では、既存資料調査の結果、哺乳類 22 種、鳥類 200 種、爬虫類 15 種、両生類 10 種、昆虫類 1,948 種、クモ類 54 種、大型陸産甲殻類 25 種、陸産貝類 25 種、魚類 86 種、底生動物 119 種が確認された。

表 2.1.5-2 動物相の概要

分 類	概 要
哺乳類	ジネズミ、ヒミズ、アブラコウモリ、ノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、カヤネズミ、アライグマ、タヌキ、イタチ、ハクビシン、ニホンイノシシ等 (22 種)
鳥 類	ヒシクイ、オシドリ、トモエガモ、カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、チュウサギ、クイナ、バン、ホトトギス、ヨタカ、アマツバメ、ケリ、コチドリ、オオジシギ、イソシギ、ハマシギ、コアジサシ、ミサゴ、オオタカ、サシバ、フクロウ、カワセミ、アオゲラ、チョウゲンボウ、サンコウチョウ、ツバメ、セッカ、ホオジロ、クロジ等 (200 種)
爬虫類	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ、カミツキガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ジムグリ、アオダイショウ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ニホンマムシ (15 種)
両生類	トウキョウサンショウウオ、アカハライモリ、ニホンヒキガエル（ニホンヒキガエル、アズマヒキガエル）、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ウシガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル (10 種)
昆虫類	モノサシトンボ、アオイトトンボ、ヤマサナエ、サラサヤンマ、チョウトンボ、オオゴキブリ、クツワムシ、ハルゼミ、コオイムシ、イネカメムシ、ツノトンボ、セアカオサムシ、ガムシ、ミヤマクワガタ、ヤマトタマムシ、ゲンジボタル、ホシベニカミキリ、スゲハムシ、オオアオゾウムシ、モンズズメバチ、ミドリバエ、セグロトビケラ、ミヤマセセリ、オナガアゲハ、ミドリシジミ、オオムラサキ、ガマヨトウ等 (1,948 種)
クモ類	キノボリトタテグモ、ミヤグモ、ダニグモ、コケヒメグモ、ジョロウグモ、オニグモ、ナカムラオニグモ、アシナガグモ、ノコギリヒザグモ、シボグモ、ヤマトコマチグモ等 (54 種)
大型陸産甲殻類	ムネトゲツチカニムシ、アカツノカニムシ、ミカンハダニ、ハイイロフサヤスデ、スジイシムカデ、セスジアカムカデ、イソシマジムカデ、ヤサコムカデ、オカトビムシ等 (25 種)
陸産貝類	ヤマタニシ、ナガオカモノアラガイ、キセルガイモドキ、オオタキコギセル、チュウゼンギセル、オカチョウジガイ、コハクガイ、ナメクジ、カサキビ、ミスジマイマイ等 (25 種)
魚類	ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、ヤリタナゴ、オイカワ、ウグイ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ギバチ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、オオクチバス、チチブ等 (86 種)
底生動物	ナミウズムシ、マルタニシ、カワニナ、モノアラガイ、カラスガイ、マシジミ、エラミミズ、シマイシビル、ヌマエビ、スジエビ、モクズガニ、サホコカゲロウ、ハグロトンボ、オニヤンマ、シマアメンボ、マメゲンゴロウ、コガムシ等 (119 種)

1. 重要な種

重要な動物種の選定基準は、表 2.1.5-3 に示すとおりである。

表 2.1.5-3 重要な動物種の選定基準

No.	選定基準	
1	文化財保護法	「文化財保護法（昭和25年 法律第214号）」による国指定の天然記念物 特天：特別天然記念物 天：天然記念物
2	種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年 法律第75号） 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
3	環境省レッドリスト	「環境省レッドリスト2017」（平成29年 環境省報道発表資料） EX：絶滅種 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 （CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類） VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
4	千葉県レッドデータブック	「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック（動物編）＜2011年 改訂版＞」（平成23年 千葉県） X：消息不明、絶滅生物 EW：野生絶滅生物 A：最重要保護生物 B：重要保護生物 C：要保護生物 D：一般保護生物 情報不足

(ア) 哺乳類

生息情報が得られた哺乳類のうち重要な種は、表 2.1.5-4 に示す 4 目 7 科 9 種であった。

表 2.1.5-4 重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	モグラ	トガリネズミ	ジネズミ				D	○	○	○
2		モグラ	ヒミズ				D	○	○	○
3	サル	オナガザル	ニホンザル				C	○	○	
4	ネズミ	リス	ニホンリス				C	○	○	○
5		ネズミ	ヒメネズミ				D	○	○	○
6			カヤネズミ				D	○	○	○
7	ネコ	イヌ	キツネ				B	○	○	○
8		イタチ	テン				D	○		
9			アナグマ				C	○	○	○
合計	4 目	7 科	9 種	0 種	0 種	0 種	9 種	9 種	8 種	7 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（平成5年 環境庁）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(イ) 鳥類

生息情報が得られた鳥類のうち重要な種は、表 2.1.5-5 に示す 17 目 37 科 109 種であった。

表 2.1.5-5(1) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	A	○		
2	カモ	カモ	サカツラガン			DD	X	○		
3			ヒシクイ ^{※3}	天		VU NT	X	○		
4			マガン	天		NT	X	○		
5			コクガン	天		VU	B	○		
6			オシドリ			DD	B	○		
7			オカヨシガモ				C	○	○	○
8			ヨシガモ				B	○		
9			トモエガモ			VU	B	○		
10			アカハジロ			DD	A	○		
11			スズガモ				D	○		
12			ホオジロガモ				B	○		
13			ウミアイサ				D	○		
14	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ				C	○	○	○
15			カンムリカイツブリ				D	○		
16	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内	CR	X	○		
17	カツオドリ	ウ	カワウ				D	○	○	○
18			ウミウ				B	○		
19	ペリカン	サギ	サンカノゴイ			EN	A	○	○	○
20			ヨシゴイ			NT	A	○	○	○
21			オオヨシゴイ			CR	X	○		
22			ミゾゴイ			VU	A	○		
23			ダイサギ				C	○	○	○
24			チュウサギ			NT	B	○	○	○
25			コサギ				C	○	○	○
26	ツル	クイナ	シマクイナ			EN	A	○	○	○
27			クイナ				X	○	○	○
28			ヒクイナ			NT	A	○	○	○
29			バン				B	○	○	○
30			オオバン				C	○	○	○
31	カッコウ	カッコウ	ホトトギス				C	○	○	○
32			ツツドリ				C	○	○	○
33			カッコウ				C	○	○	○
34	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	X	○	○	○
35	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ				A	○	○	○
36			ヒメアマツバメ				C	○		
37	チドリ	チドリ	タゲリ				C	○	○	○
38			ケリ			DD	A	○		
39			ムナグロ				D	○	○	○
40			イカルチドリ				C	○	○	○
41			コチドリ				B	○	○	○
42			シロチドリ			VU	A	○		
43			メダイチドリ				C	○		
44		セイタカシギ	セイタカシギ			VU	A	○		

表 2.1.5-5(2) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
45	チドリ	シギ	オオジシギ			NT	A	○	○	○
46			チュウジシギ				A	○		
47			オグロシギ				C	○		
48			オオソリハシシギ			VU	C	○		
49			チュウシャクシギ				C	○	○	○
50			ダイシャクシギ				A	○		
51			ツルシギ			VU	B	○		
52			アカアシシギ			VU	B	○		
53			アオアシシギ				D	○		
54			クサシギ				D	○	○	○
55			タカブシギ			VU	B	○		
56			キアシシギ				C	○	○	○
57			ソリハシシギ				C	○		
58			イソシギ				A	○	○	○
59			キョウジョシギ				C	○	○	○
60			オバシギ				C	○		
61			トウネン				D	○		
62			ウズラシギ				B	○		
63			ハマシギ			NT	B	○		
64			キリアイ				B	○		
65		タマシギ	タマシギ			VU	A	○	○	○
66		ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU	A	○		
67		カモメ	コアジサシ		国際	VU	A	○		○
68	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	B	○	○	
69		タカ	トビ				D	○	○	○
70			チュウヒ		国内	EN	A	○	○	○
71			ツミ				C	○	○	○
72			ハイタカ			NT	B	○	○	○
73			オオタカ			NT	B	○	○	○
74			サシバ			VU	A	○	○	○
75			ノスリ				C	○	○	○
76	フクロウ	フクロウ	フクロウ				B	○	○	○
77			アオバズク				A	○	○	○
78			コミミズク				A	○		
79	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ				C	○	○	○
80	キツツキ	キツツキ	アカゲラ				C	○		○
81			アオゲラ				C	○		○
82	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				D	○	○	○
83			ハヤブサ		国内	VU	B	○	○	○

表 2.1.5-5(3) 重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
84	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ				A	○	○	○
85		モズ	アカモズ			EN	X	○		
86		カラス	カケス				C	○	○	○
87		ヒバリ	ヒバリ				D	○	○	○
88		ツバメ	ツバメ				D	○	○	○
89			コシアカツバメ				B	○		
90			イワツバメ				D	○		○
91		ウグイス	ヤブサメ				C	○	○	○
92		ムシクイ	センダイムシクイ				C	○	○	○
93		センニュウ	オオセッカ		国内	EN	A	○		
94		ヨシキリ	オオヨシキリ				D	○	○	○
95			コヨシキリ				D	○	○	○
96		セッカ	セッカ				D	○	○	○
97		ミソサザイ	ミソサザイ				C	○		○
98		ヒタキ	トラツグミ				A	○	○	○
99			イソヒヨドリ				C	○		
100			コサメビタキ				A	○	○	○
101			キビタキ				A	○	○	○
102			オオルリ				B	○	○	○
103		セキレイ	キセキレイ				B	○	○	○
104		アトリ	イカル				D	○		○
105		ホオジロ	ホオジロ				C	○	○	○
106			ホオアカ				C	○	○	
107			クロジ				D	○	○	○
108			コジュリン			VU	A	○	○	○
109			オオジュリン				D	○	○	○
合計	17 目	37 科	109 種	4 種	5 種	38 種	109 種	109 種	61 種	65 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年 日本鳥学会）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

※3 ヒシクイは、複数の亜種に分類され、亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイが該当する。ただし、文献その他の資料では亜種の分類別記載がないことからヒシクイとして標記した。重要な種の選定については、選定基準3のみ2亜種を分けて評価していることから、両方の評価を標記した。VUは亜種ヒシクイ、NTは亜種オオヒシクイが該当する。

(ウ) 爬虫類

生息情報が得られた爬虫類のうち重要な種は、表 2.1.5-6 に示す 2 目 7 科 13 種であった。

表 2.1.5-6 重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	カメ	イシガメ	クサガメ				情報不足	○	○	○
2			ニホンイシガメ			NT	A	○	○	○
3		スッポン	ニホンスッポン			DD	情報不足	○	○	○
4	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ				D	○	○	○
5		トカゲ	ヒガシニホントカゲ				B	○	○	○
6		カナヘビ	ニホンカナヘビ				D	○	○	○
8		ヘビ	ジムグリ				B	○	○	○
9			アオダイショウ				D	○	○	○
7			シマヘビ				C	○	○	○
10			ヒバカリ				D	○	○	○
11			シロマダラ				B	○	○	○
12			ヤマカガシ				D	○	○	○
13		クサリヘビ	マムシ				B	○	○	○
合計	2 目	7 科	13 種	0 種	0 種	2 種	13 種	13 種	13 種	13 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（平成 29 年 日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(I) 両生類

生息情報が得られた両生類のうち重要な種は、表 2.1.5-7 に示す 2 目 5 科 8 種であった。

表 2.1.5-7 重要な種（両生類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	有尾	サンショウウオ	トウキョウサンショウウオ			VU	A	○	○	○
2		イモリ	アカハライモリ			NT	A	○	○	○
3	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル				C	○	○	○
4		アカガエル	ニホンアカガエル				A	○	○	○
5			ヤマアカガエル				C	○		○
6			ツチガエル				A	○	○	○
7			トウキョウダルマガエル			NT	B	○	○	○
8		アオガエル	シュレーゲルアオガエル				D	○	○	○
合計	2 目	5 科	8 種	0 種	0 種	3 種	8 種	8 種	7 種	8 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（平成 29 年 日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(カ) 昆虫類

生息情報が得られた昆虫類のうち重要な種は、表 2.1.5-8 に示す 14 目 72 科 167 種であった。

表 2.1.5-8(1) 重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	カゲロウ	シロイロカゲロウ	アカツキシロカゲロウ			NT	D	○		
2	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ				A	○		
3			セスジイトトンボ				C	○	○	○
4			オオセスジイトトンボ			EN	A	○	○	○
5			ムスジイトトンボ				B	○	○	○
6			オオイトトンボ				B	○	○	○
7			キイトトンボ				C	○	○	○
8			モートンイトトンボ			NT	B	○	○	○
9		モノサシトンボ	モノサシトンボ				C	○	○	○
10			オオモノサシトンボ			EN	A	○	○	○
11		アオイトトンボ	コバネアオイトトンボ			EN	X	○		
12			アオイトトンボ				C	○	○	○
13		カワトンボ	アオハダトンボ			NT	X	○	○	○
14		サナエトンボ	ヤマサナエ				D	○		○
15			キイロサナエ			NT	B	○	○	○
16			ホンサナエ				B	○	○	○
17			ウチワヤンマ				D	○	○	○
18			ナゴヤサナエ			VU	A	○	○	○
19			コサナエ				B	○	○	○
20		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	B	○	○	○
21			アオヤンマ			NT	B	○	○	○
22			マルタンヤンマ				C	○	○	○
23			クロスジギンヤンマ				D	○	○	○
24			カトリヤンマ				B	○	○	○
25			サラサヤンマ				D	○	○	○
26			ヤブヤンマ				D	○	○	○
27		エゾトンボ	トラフトンボ				A		○	○
28		トンボ	ベッコウトンボ		国内	CR	X	○		
29			ハラビロトンボ				B	○	○	○
30			チョウトンボ				D	○	○	○
31			コノシメトンボ				D	○	○	○
32			ミヤマアカネ				X	○		
33			リスアカネ				B	○	○	○
34			オオキトンボ			EN	X	○		
35	カワゲラ	オナシカワゲラ	アイズクサカワゲラ				A	○		
36	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ				D	○	○	○
37	カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ			DD		○	○	○
38	バッタ	ギリギリス	オオクサキリ				A	○		
39		クツワムシ	クツワムシ				C	○	○	○
40		マツムシ	マツムシ				D	○		

表 2.1.5-8(2) 重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
41	カメムシ	セミ	ハルゼミ				A	○	○	○
42		イトアメンボ	イトアメンボ			VU	A	○		
43		アメンボ	エサキアメンボ			NT	B	○	○	
44			ハネナシアメンボ				B	○	○	○
45		コオイムシ	コオイムシ			NT		○		
46			タガメ			VU	A	○		○
47		タイコウチ	ヒメミズカマキリ				B	○		
48		ミズムシ	ミヤケミズムシ			NT		○		
49		コバンムシ	コバンムシ			EN	A	○		
50		マダラナガカメムシ	ヒメジュウジナガカメムシ				D	○		
51		ツノカメムシ	ベニモンツノカメムシ				C	○	○	
52		カメムシ	ルリクチブトカメムシ				D	○		○
53			イネカメムシ				C	○	○	
54			ハナダカカメムシ				D	○		
55	アミメカゲロウ	カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ				B	○	○	○
56		ツノトンボ	ツノトンボ				C	○		
57	コウチュウ	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ				C	○	○	○
58		ハンミョウ	コハンミョウ				D	○	○	
59		オサムシ	アカガネオサムシ			VU	B		○	
60			ヒメマイマイカブリ				C	○	○	○
61			セアカオサムシ			NT	B	○	○	○
62			トウホククロナガオサムシ				C	○	○	○
63			コハンミョウモドキ			EN	A	○		
64			トネガワナガゴミムシ				D	○		
65			タナカツヤハネゴミムシ			DD		○		
66			スナハラゴミムシ			VU	A	○		
67			オオサカアオゴミムシ			DD		○		
68			オオキベリアオゴミムシ				D	○		
69			オオトックリゴミムシ			NT	D	○		
70			コアオアトキリゴミムシ				D	○		
71		ゲンゴロウ	ケシゲンゴロウ			NT		○		
72			キベリクロヒメゲンゴロウ			NT		○		
73			マルガタゲンゴロウ			VU	B	○		
74			シマゲンゴロウ			NT	D	○		
75		ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	C	○		
76			ミズスマシ			VU	C	○		
77		ガムシ	コガムシ			DD	D	○	○	
78			ガムシ			NT	C	○	○	○
79		シデムシ	ヤマトモンシデムシ			NT	B	○		○
80			ベッコウヒラタシデムシ				D	○	○	○
81		クワガタムシ	オオクワガタ			VU	A	○	○	○
82			ヒラタクワガタ				B	○	○	○
83			ミヤマクワガタ				D	○		○

表 2.1.5-8(3) 重要な種 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名 (和名)	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
84	コウチュウ	センチコガネ	ムネアカセンチコガネ				D	○		
85		コガネムシ	オオフタホシマグソコガネ				B	○	○	○
86			キバネマグソコガネ			NT	A	○		
87			コカブトムシ				D	○	○	
88		ナガハナノミ	ヒゲナガハナノミ				D	○	○	○
89		タマムシ	クロタマムシ				C	○		
90			ヤマトタマムシ				D	○	○	○
91		ホタル	ゲンジボタル				B	○	○	○
92			ヘイケボタル				C	○	○	○
93			クロマドボタル				C	○	○	○
94		ツチハンミョウ	ヒメツチハンミョウ				C	○	○	
95		カミキリムシ	ベーツヒラタカミキリ				B	○		
96			ニセノコギリカミキリ				C	○	○	○
97			アオスジカミキリ				D	○	○	○
98			ヨツボシカミキリ			EN	B	○	○	
99			ホシベニカミキリ				D	○		
100			イボタサビカミキリ				D	○		
101			ネジロカミキリ				D	○		
102		ハムシ	キアシネクイハムシ				C	○		
103			フトネクイハムシ				C	○		
104			イネネクイハムシ				D	○		
105			スゲハムシ				B	○		○
106			オオルリハムシ			NT	B	○	○	
107			ジュンサイハムシ				C	○		
108		ゾウムシ	オオアオゾウムシ				C		○	
109			ウキクサミズゾウムシ				B	○		
110			エゴシギゾウムシ				D	○		
111	ハチ	コンボウハバチ	ホシアシブトハバチ			DD		○	○	○
112		キバチ	ヒゲジロキバチ				C		○	
113		コマユバチ	シブオナガコマユバチ				A	○	○	○
114		セイボウ	セイドウマルセイボウ				C	○	○	○
115		セイボウモドキ	Cleptes fudzi				B	○		
116		ベッコウバチ	スギハラベッコウ			DD	C	○		
117			アケボノベッコウ			DD				○
118			ムツボシベッコウ			NT	A	○	○	○
119			フタモンベッコウ			NT		○		
120		ドロバチ	ハグロフタオビドロバチ				B	○	○	○
121			キボシトックリバチ				C	○	○	○
122		スズメバチ	ヤマトアシナガバチ			DD		○	○	○
123			モンスズメバチ			DD		○		
124		アナバチ	ヤマトスナハキバチ			DD		○		
125			キアシハナダカバチモドキ			VU	B	○	○	○
126		コハナバチ	Sphecodes chibaensis				C	○		
127		ハキリバチ	フルカワフトハキリバチ			DD	A	○	○	○
128		コシブトハナバチ	シロスジコシブトハナバチ				A	○		
129			ルリモンハナバチ			DD		○		
130			ウスルリモンハナバチ				A	○		
131		ミツバチ	クロマルハナバチ			NT	C	○		○

表 2.1.5-8(4) 重要な種（昆虫類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
132	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ				D	○	○	○
133	ハエ	イエバエ	チビトゲアシメマトイ				B	○		
134			コミドリイエバエ				X	○		
135		クロバエ	ミドリバエ				D	○	○	
136	トビケラ	カクツツトビケラ	トウヨウカクツツトビケラ				D	○	○	○
137		エグリトビケラ	セグロトビケラ				B	○	○	○
138		マルバネトビケラ	マルバネトビケラ				D	○	○	○
139		ケトビケラ	グマガトビケラ				C	○	○	○
140	チョウ	セセリチョウ	アオバセセリ本土亜種				B	○	○	
141			ミヤマセセリ				B	○	○	○
142			ホソバセセリ				B	○		
143			ギンイチモンジセセリ			NT	D	○		
144			ヒメキマダラセセリ				D	○	○	○
145			ミヤマチャバネセセリ				C	○		
146			オオチャバネセセリ				B	○		○
147		アゲハチョウ	オナガアゲハ				C	○		
148		シジミチョウ	ミズイロオナガシジミ				C	○	○	○
149			コツバメ				B	○		○
150			オオミドリシジミ				C	○	○	○
151			アカシジミ				C	○	○	○
152			ウラナミアカシジミ				C	○	○	○
153			ミドリシジミ				C	○	○	○
154		マダラチョウ	アサギマダラ				D	○		
155		タテハチョウ	ミドリヒョウモン				C	○		○
156			ウラギンスジヒョウモン			VU	X	○		○
157			オオウラギンスジヒョウモン				A	○		
158			アサマイチモンジ				C	○	○	○
159			ミスジチョウ				C	○	○	○
160			ヒオドシチョウ				B	○		
161			オオムラサキ			NT	B	○		
162		ジャノメチョウ	ジャノメチョウ				C	○	○	○
163		ヒトリガ	シロホソバ			NT		○		
164		ヤガ	ツマグロキョトウ				B	○		
165			ガマヨトウ			VU	C	○		
166			オオチャバネヨトウ			VU	C	○		
167			イチモジヒメヨトウ			VU	C	○		
合計	14 目	72 科	167 種	0 種	1 種	58 種	152 種	162 種	87 種	85 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（平成 7 年 環境庁）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(カ) クモ類

生息情報が得られたクモ類のうち重要な種は、表 2.1.5-9 に示す 1 目 2 科 5 種であった。

表 2.1.5-9 重要な種（クモ類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	クモ	トタテグモ	キノボリトタテグモ			VU	B	○	○	
2		コガネグモ	コケオニグモ				A		○	
3			オニグモ				D	○	○	
4			コガネグモ				C	○	○	
5			ナカムラオニグモ				D	○	○	
合計	1 目	2 科	5 種	0 種	0 種	1 種	5 種	4 種	5 種	0 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産クモ類目録」（平成 27 年 谷川明男）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(キ) 大型陸産甲殻類（土壌動物）

生息情報が得られた大型陸産甲殻類のうち重要な種は、表 2.1.5-10 に示す 1 綱 1 目 1 科 1 種であった。

表 2.1.5-10 重要な種（大型陸産甲殻類）

No.	綱名	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
					1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	ヤスデ	フサヤスデ	フサヤスデ	ハイイロフサヤスデ				A	○	○	○
合計	1 綱	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	1 種	1 種	1 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅰ」（平成 5 年 環境庁）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(ク) 陸産貝類

生息情報が得られた陸産貝類のうち重要な種は、表 2.1.5-11 に示す 1 目 3 科 4 種であった。

表 2.1.5-11 重要な種（陸産貝類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	マイマイ	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT	C	○	○	○
2		キセルガイモドキ	キセルガイモドキ				C	○	○	○
3		キセルガイ	オオタキコギセル				D	○	○	○
4			チュウゼンジギセル			NT	B	○	○	○
合計	1 目	3 科	4 種	0 種	0 種	2 種	4 種	4 種	4 種	4 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅲ」（平成 10 年 環境庁）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(ウ) 魚類

生息情報が得られた魚類のうち重要な種は、表 2.1.5-12 に示す 9 目 13 科 36 種であった。

表 2.1.5-12 重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ			VU	A	○	○	○
2			カワヤツメ			VU		○		
3	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN		○	○	○
4	コイ	コイ	キンブナ			VU	C	○	○	○
5			ギンブナ				D	○	○	○
6			ミヤコタナゴ	天	国内	CR	A	○		
7			ヤリタナゴ			NT	B	○	○	○
8			タナゴ			EN	A	○	○	○
9			アカヒレタビラ			EN	B	○	○	
10			ゼニタナゴ			CR	X	○		
11			モツゴ				D	○	○	○
12			シナイモツゴ			CR		○		
13			ホンモロコ			CR		○		
14			ゼゼラ			VU		○		
15			カマツカ				B	○	○	○
16			ツチフキ			EN		○	○	○
17			ニゴイ				C	○	○	○
18			スゴモロコ			VU		○	○	○
19		ドジョウ	ドジョウ			DD		○	○	○
20			ヒガシシマドジョウ				C	○	○	○
21			ホトケドジョウ			EN	C	○	○	○
22	ナマズ	ギギ	ギバチ			VU	B	○		
23		ナマズ	ナマズ				B	○	○	○
24	サケ	シラウオ	シラウオ				C	○	○	○
25		サケ	サクラマス(ヤマメ)			NT		○		
26	ダツ	メダカ	ミナミメダカ			VU	B	○	○	○
27		サヨリ	クルメサヨリ			NT	C	○	○	○
28	トゲウオ	トゲウオ	イトヨ（降海型）			LP		○	○	○
29			ムサシトミヨ			CR		○		
30	カサゴ	カジカ	カジカ			NT		○		
31	スズキ	ハゼ	イサザ			CR		○		
32			エドハゼ			VU	D	○		
33			ビリング				D	○		
34			ジュズカケハゼ			NT		○		
35			マサゴハゼ			VU		○		
36			ヌマチチブ				D	○	○	○
合計	9 目	13 科	36 種	1 種	1 種	27 種	21 種	36 種	21 種	20 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」（平成 28 年 国土交通省）に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

(I) 底生動物

生息情報が得られた底生動物のうち重要な種は、表 2.1.5-13 に示す 4 綱 11 目 27 科 57 種であった。

表 2.1.5-13(1) 重要な種（底生動物）

No.	綱名	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
					1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	腹足	アマオ ブネガイ	アマオブネ ガイ	イシマキガイ				B	○		
2		原始紐 舌	タニシ	マルタニシ			VU	D	○	○	○
3				オオタニシ			NT		○		
4			イツマデガイ	カタヤマガイ			CR +EN	A	○		
5			エゾマメタ ニシ	マメタニシ			VU	A	○		
6		基眼	モノアラガイ	モノアラガイ			NT	C	○	○	○
7			ヒラマキガイ	ヒラマキミズ マイマイ			DD	B	○		
8				トウキョウヒ ラマキガイ			DD	B	○		
9				ヒラマキガイ モドキ			NT		○		
10	二枚貝	イシガイ	イシガイ	カラスガイ			NT	A	○		
11				イシガイ				D	○	○	
12				マツカサガイ			NT	B	○	○	○
13		ハマグリ	シジミ	ヤマトシジミ			NT	B	○		
14				マシジミ			VU	A	○	○	○
15	軟甲	エビ	ヌマエビ	ヤマトヌマエビ				C	○	○	
16				ミゾレヌマエビ				A	○		
17				ヌマエビ				C		○	
18				ヌカエビ				C	○		
19			テナガエビ	テナガエビ				D	○	○	
20				スジエビ				D	○	○	
21			サワガニ	サワガニ				C	○	○	
22			モクズガニ	モクズガニ				D	○	○	
23	昆虫	トンボ (蜻蛉)	アオイトト ンボ	コバネアオイ トトンボ			EN	X	○		
24				アオイトトンボ				C	○	○	○
25			イトトンボ	ホソミイトト ンボ				A	○		
26				キイトトンボ				C	○		
27				モートンイト トンボ			NT	B	○		
28				セスジイトト ンボ				C	○		
29				オオセスジイ トトンボ			EN	A	○	○	○
30				ムスジイトト ンボ				B	○	○	○
31			モノサシト ンボ	オオモノサシ トンボ			EN	A	○	○	○

表 2.1.5-13(2) 重要な種（底生動物）

No.	綱名	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
					1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
32	昆虫	トンボ (蜻蛉)	ヤンマ	アオヤンマ			NT	B	○		○
33				マルタンヤンマ				C	○		
34				クロスジギンヤンマ				D	○		
35				カトリヤンマ				B	○	○	
36				サラサヤンマ				D	○	○	
37			サナエトンボ	ヤマサナエ				D	○		
38				キイロサナエ			NT	B	○		
39				ホンサナエ				B	○		○
40				ウチワヤンマ				D	○		
41				コサナエ				B	○	○	○
42			エゾトンボ	トラフトンボ				A		○	○
43		トンボ		ベッコウトンボ		国内	CR	X	○		
44				ハラビロトンボ				B	○	○	
45				チョウトンボ				D	○	○	○
46				コノシメトンボ				D	○		
47				リスアカネ				B	○		
48		カワゲラ (セキ翅)	アミメカワゲラ	アイズクサカワゲラ				A	○		
49		カメムシ (半翅)	アメンボ	エサキアメンボ			NT	B	○		
50			タイコウチ	ヒメミズカマキリ				B	○		
51		トビケラ (毛翅)	マルバネトビケラ	マルバネトビケラ				D	○		
52			ケトビケラ	グマガトビケラ				C	○		
53		コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ			VU	B	○		
54			ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	C	○		
55				ミズスマシ			VU	C	○		
56			ガムシ	コガムシ			DD	D	○	○	
57				ガムシ			NT	C	○		
合計	4 綱	11 目	27 科	57 種	0 種	1 種	25 種	55 種	55 種	22 種	13 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度版」(平成 28 年 国土交通省)に準拠した。

※2 選定基準の標記は、表 2.1.5-3 参照。

ウ. 注目すべき生息地

注目すべき生息地の選定基準は表 2.1.5-14 に示すとおりである。

整備実施区域及びその周囲には、表 2.1.5-15 及び図 2.1.5-1 に示すとおり、鳥獣保護区として「成田市中郷鳥獣保護区」が分布するほか、郷土環境保全地域として「大慈恩寺の森郷土環境保全地域」、千葉県重要な植物群落が「オギ群落、オニナルコスゲ群落、シロネ群落等 12 群落」、自然植生として「自然度 9 のヤブコウジースダジイ群集」等が分布する。その他、ラムサール条約湿地や重要野鳥生息地、重要湿地等は分布していない。

表 2.1.5-14(1) 注目すべき生息地の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー
1	「文化財保護法」 (昭和 25 年 法律第 214 号)	特別天然記念物、天然記念物
	「千葉県文化財保護条例」 (昭和 30 年 条例第 8 号)	天然記念物 (県指定)
	「成田市文化財の保護に関する条例」(昭和 42 年 条例第 17 条)	天然記念物 (市指定)
	「多古町文化財の保護に関する条例」(昭和 32 年 条例第 9 条)	天然記念物 (町指定)
	「芝山町文化財の保護に関する条例」(昭和 48 年 条例第 11 条)	天然記念物 (町指定)
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年 法律第 75 号)	生息地等保護区
3	「自然公園法」 (昭和 32 年 法律第 161 号)	国立公園、国定公園
	「千葉県立自然公園条例」 (昭和 35 年 千葉県条例第 15 号)	県立自然公園
4	「自然環境保全法」 (昭和 47 年 法律第 85 号)	原生自然環境保全地域、自然環境保全地域
	千葉県自然環境保全条例 (昭和 48 年 千葉県条例第 1 号)	自然環境保全地域、郷土環境保全地域、緑地環境保全地域
5	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」 (平成 14 年 法律第 88 号)	鳥獣保護区、特別保護地区、特別保護指定区域

表 2.1.5-14(2) 注目すべき生息地の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー
6	「森林法」 (昭和 26 年 法律第 49 号)	保安林
7	「保護林制度」 (大正 4 年 林野庁)	森林生態系保護地域、森林生物遺伝資源保存林、材木遺伝資源保存林、植物群落保護林、特定動物生息地保護林、特定地理等保護林、郷土の森
8	「ラムサール条約」 (昭和 55 年条約第 28 号)	基準 1: 特定の生物地理区を代表するタイプの湿地、又は希少なタイプの湿地 基準 2: 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地 基準 3: 生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地 基準 4: 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地 基準 5: 定期的に 2 万羽以上の水鳥を支える湿地 基準 6: 水鳥の 1 種または 1 亜種の個体群で、個体数の 1% 以上を定期的に支えている湿地 基準 7: 固有な魚類の亜種、種、科の相当な割合を支えている湿地。また湿地というものの価値を代表するような、魚類の生活史の諸段階や、種間相互作用、個体群を支え、それによって世界の生物多様性に貢献するような湿地 基準 8: 魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外における漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地 基準 9: 湿地に依存する鳥類に分類されない動物の種及び亜種の個体群で、その個体群の 1% を定期的に支えている湿地
9	「日本の重要湿地 500」 (平成 23 年 環境省)	基準 1: 湿原・塩性湿原、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準 2: 希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準 3: 多様な生物相を有している場合 基準 4: 特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合 基準 5: 生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合
10	「第 5 回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (平成 12 年 環境庁)	A: 原生林もしくはそれに近い自然林 B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C: 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G: 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群 H: その他、学術的重要な植物群落または個体群

表 2.1.5-14(3) 注目すべき生息地の選定基準

No.	選定基準	カテゴリー
11	「千葉県の保護上重要な野生生物 植物編」 (平成 11 年 千葉県)	自 然 性 : 自然林または自然草原と判断された群落 特殊な立地 : 特殊な立地に成立する群落 RDB 種の存否 : RDB 種を 1 種類以上含む群落
12	「重要野鳥生息地」 (I B A)	基準 A1 : 世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地 基準 A2 : 生息地域限定種(Restricted-range species)が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地 基準 A3 : ある 1 種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が 1 つのバイオームに含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地 基準 A4i : 群れを作る水鳥の生物地理的個体群の 1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト 基準 A4ii : 群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の 1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト 基準 A4iii : 1 種以上で 2 万羽以上の水鳥、または 1 万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト 基準 A4iv : 渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト
13	「首都圏近郊緑地保全法」 (昭和 41 年 法律第 101 号)	近郊緑地保全区域
14	「都市緑地法」 (昭和 48 年 法律第 72 号)	特別緑地保全地区
15	「1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」(環境省自然環境局生物多様性センター報道発表資料 平成28年3月31日)	自然植生 ・ 自然林 : 自然度 9 ・ 自然草原 : 自然度 10
16	「第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成13年環境省)	巨樹・巨木林

表 2.1.5-15 注目すべき生息地

No.	選定基準	名称・分布状況
1	国・県・市町指定天然記念物	①久米の大シイ ②赤荻の大エノキ ③普賢院の槲の木 ④上吹入の杉と椎の双体樹 ⑤相馬高神社本殿脇の大杉 ⑥稲波干拓地のオオヒシクイ
3	県立自然公園	県立印旛手賀自然公園
4	郷土環境保全地域	大慈恩寺の森郷土環境保全地域
5	鳥獣保護区	成田市中郷鳥獣保護区
6	保安林	成田市：土砂崩壊防備林 0.4ha、防風林 15.6ha 多古町：土砂流出防備林 0.4ha、土砂崩壊防備林 10.0ha、干害防備林 5.2ha
10	特定植物群落	成田市麻賀多神社の森（選定基準：E） 成田市小御門神社の森（選定基準：F）
11	千葉県 重要な植物群落	オギ群落、オニナルコスゲ群落、シロネ群落、スギ群落、ススキ群落、スダジイ群落、ハンノキ群落、ヒメガマ群落、マコモ群落、マダケ群落、モミ群落、ヨシ群落
15	自然植生	自然度 9：ヤブコウジースダジイ群集
16	巨樹・巨木林	アブラギリ 1 件、イチヨウ 7 件、イヌマキ 1 件、カヤ 3 件、クスノキ 2 件、クロマツ 4 件、ケヤキ 11 件、シイノキ 1 件、シラカシ 1 件、スギ 41 件、スダジイ 25 件、ソメイヨシノ 1 件、タブノキ 4 件、ツブラジイ 1 件、トウカエデ 1 件、ヒノキ 2 件、プラタナス 2 件、モミ 10 件、計 118 件

※1 天然記念物は図枠内のみ抽出した。

※2 千葉県 重要な植物群落におけるそれぞれの群落の位置は不明である。

※3 網掛けは図枠内に位置することを示す。

(2) 植物の状況

1) 植物の生育、植生の状況

植物の生育、植生の状況を把握するために収集した文献その他の資料を表 2.1.5-16 に示す。

なお、調査対象範囲は成田市及び多古町、芝山町とし、各市町における記録のある植物を抽出した。

表 2.1.5-16 収集した文献その他の資料

No.	文献・資料名
1	「動植物生息調査（第 2 次陸域編）報告書」（平成 16 年 3 月 成田市）
2	「動植物生息調査（第 2 次水辺編）報告書」（平成 15 年 3 月 成田市）
3	「芝山の植物（千葉県植物詩資料 特集 1 号）」（平成 9 年 千葉県植物詩資料編集同人）
4	「大栄町史－自然編－」（平成 9 年 3 月 大栄町）
5	「（仮称）成田市・富里市新清掃工場整備事業に係る環境影響評価書」（平成 21 年 成田市・富里市）
6	「千葉県の自然誌 本編 4 千葉県の植物 1」（平成 10 年 千葉県）
7	「千葉県の自然誌 本編 5 千葉県の植物 2」（平成 13 年 千葉県）
8	「千葉県の自然誌 別冊 4 千葉県植物誌」（平成 15 年 千葉県）
9	「新版 千葉県植物誌」（昭和 50 年 千葉県生物学会）
10	「千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物編」（平成 11 年 3 月 千葉県）
11	「千葉県レッドリスト－植物編（2004 年改訂版）」（平成 16 年 千葉県）
12	「千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物・菌類編」（2009 年改訂版）（平成 21 年 千葉県） ^{注)}
13	「千葉県レッドリスト－植物編（2017 年改訂版）」（平成 29 年 千葉県）
14	「生物多様性情報システム－第 2 回動植物分布調査」（昭和 53-55 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
15	「生物多様性情報システム－第 3 回動植物分布調査」（昭和 58-63 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
16	「生物多様性情報システム－第 4 回動植物分布調査」（昭和 63 年-平成 5 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
17	「生物多様性情報システム－第 5 回動植物分布調査」（平成 5-11 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
18	「生物多様性情報システム－第 6 回動植物分布調査」（平成 5-17 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
19	「生物多様性情報システム－第 7 回動植物分布調査」（平成 17-20 年 環境省自然環境局生物多様性センター）
20	N A A 資料

注) 当文献に加え、千葉県生物多様性センターから提出された情報に基づき、調査対象範囲に記録のある種を抽出した。

ア. 植物相

調査対象範囲の3市町では、既存資料調査の結果、表 2.1.5-17 に示す維管束植物が 1,924 種、蘚苔類が 29 種、地衣類が 32 種、大型菌類が 13 種、大型藻類が 17 種、付着藻類 57 種が確認されている。

整備実施区域及びその周囲の標高は約 40m 程度であり、気候的には暖温帯にあたり、暖温帯植物が多くを占めている。「千葉県保護上重要な野生生物－千葉県レッドデータブック－植物編」（1999 年（平成 11 年）3 月 千葉県）によると、千葉県に自生する在来種は維管束植物（シダ植物及び種子植物）では、約 2,700 種となっている。

表 2.1.5-17 植物相の概要

分 類	概 要
維管束植物	トネハナヤスリ、ミドリカナワラビ、デンジソウ、ヒメコマツ、フクジュソウ、ヒツジグサ、タチスミレ、ミツガシワ、タヌキモ、キキョウ、アズマギク、スブタ、イトモ、カタクリ、ナガエミクリ、ムジナスゲ、クマガイソウ、コシカクイ、オオツクバネガシ等 (1,924 種)
蘚苔類	コアナミズゴケ、オオカサゴケ、コツボゴケ、コウライイチイゴケ、チヂミカヤゴケ、コクサリゴケ、マキノゴケ、ゼニゴケ、イチョウウキゴケ、コツノゴケ等 (29 種)
地衣類	ヤリノホゴケ、キウメノキゴケ、ウメノキゴケ、コフクレサルオガセ、アカサルオガセ、イワカラタチゴケ、キウラゲジゲジゴケ、クサビラゴケ、オオチクビゴケ等 (32 種)
大型菌類 (きのこ類)	ハマシメジ、カバイロコナテングタケ、シロテングタケ、ドクカラカサタケ、オオヤシャイグチ、ムラサキヤマドリタケ、ブクリョウ、ヒロハシデチチタケ等 (13 種)
大型藻類（紅藻・車軸藻）	オオイシソウ、インドオオイシソウ、カワモズク、アオカワモズク、シャジクモ、ケナガシャジクモ、カタシャジクモ、オトメフラスコモ、ホシツリモ等 (17 種)
付着藻類	カモジシオグサ、フタマタシオグサ、ミゾジュズモ、アオミソウ、アミミドロ等 (57 種)

1. 重要な種

重要な植物種の選定基準は表 2.1.5-18 に示すとおりである。

表 2.1.5-18 重要な種の選定基準

No.	選定基準	
1	文化財保護法	「文化財保護法」(昭和25年)による国指定の天然記念物 特天：特別天然記念物 天：天然記念物
2	種の保存法	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年) 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
3	環境省レッドリスト	「環境省レッドリスト2017」(平成29年、環境省報道発表資料) EX：絶滅種 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
4	千葉県レッドリスト	「千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト(植物・菌類編)＜2017年改訂版＞」(平成29年、千葉県) X：消息不明、絶滅生物 EW：野生絶滅生物 A：最重要保護生物 B：重要保護生物 C：要保護生物 D：一般保護生物 RH：保護参考雑種 情報不足

(ア) 維管束植物

生育情報が得られた維管束植物のうち重要な種は、表 2.1.5-19 に示す 99 科 447 種であった。

表 2.1.5-19(1) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ				C	○	○	○
2		イワヒバ	カタヒバ				C	○		
3			イヌカタヒバ			VU		○	○	○
4		ミズニラ	ミズニラ			NT		○	○	○
5		ハナヤスリ	アカハナワラビ				B	○	○	○
6			ナガボノナツノハナワラビ				C	○	○	○
7			ナツノハナワラビ				C	○	○	○
8			トネハナヤスリ			VU	A	○		
9			ヒロハハナヤスリ				C	○	○	○
10		キジノオシダ	オオキジノオ				C	○		
11		コケシノブ	ウチワゴケ				C	○		
12			コウヤコケシノブ				C	○		
13		コバノイシカ グマ	コバノイシカグマ				A	○	○	○
14			オオレンシダ				C	○	○	○
15		ミズワラビ	クジャクシダ				C	○	○	○
16		シシラン	シシラン				X	○		
17		チャセンシダ	クモノスシダ				C	○		
18			コバノヒノキシダ				D	○		○
19			コタニワタリ				A	○		
20			イワトラノオ				B	○		
21		オシダ	シノブカグマ				X	○	○	○
22			ミドリカナワラビ				A			○
23			オニカナワラビ				C	○	○	○
24			イワヘゴ				C	○	○	○
25			ツクシイワヘゴ				D	○	○	○
26			オシダ				C	○	○	○
27			オオクジャクシダ				C	○	○	
28			サクライカグマ				D	○	○	○
29			ハガネイワヘゴ				RH	○		
30			ハコネオオクジャク				RH	○		○
31			ギフベニシダ				C	○	○	○
32			イワヘゴモドキ				RH		○	
33			エンシュウベニシダ				C	○	○	○
34			ミヤマクマワラビ				X		○	○
35			イヌイワイタチシダ				A	○	○	
36			ナガバノイタチシダ				C	○	○	○
37			ナンゴクナライシダ				C	○	○	○
38			シモフサイノデ				RH		○	
39			カタイノデ				D	○	○	
40			ツヤナシイノデ				D	○	○	○
41			イワシロイノデ				C	○	○	○
42			サイゴクイノデ				D	○	○	○
43			サカゲイノデ				A	○	○	○
44			オニイノデ			VU	X	○		
45			イノデモドキ				C	○	○	○
46			オオキヨスミシダ				D	○	○	○

表 2.1.5-19(2) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
47	シダ植物	メシダ	カラクサイヌワラビ				C	○	○	○
48			サトメシダ				A	○	○	
49			ミヤマメシダ				X	○		
50			ヌリワラビ				B	○		○
51			タニイヌワラビ				A	○	○	○
52			タカオシケチシダ				D	○	○	
53			ハクモウイノデ				C	○	○	○
54			ミドリワラビ				A	○		
55			ヒカゲワラビ				D	○	○	○
56			シロヤマシダ				C	○	○	○
57			オニヒカゲワラビ				C	○	○	○
58			イワデンド				C	○	○	○
59		ウラボシ	ヒメノキシノブ				C	○	○	○
60			オシャグジデンド				A	○		
61		デンジソウ	デンジソウ			VU	B	○	○	○
62		サンショウモ	サンショウモ			VU	B	○	○	○
63		アカウキクサ	オオアカウキクサ			EN	C	○	○	○
64	裸子植物	マツ	ヒメコマツ				A		○	○
65		ヒノキ	ネズ				C	○		
66	被子植物	クルミ	オニグルミ				D	○	○	
67	双子葉植物 離弁花類	ヤナギ	バッコヤナギ				D	○		
68			オオネコヤナギ				C	○		
69			キヌヤナギ				C	○		○
70			オノエヤナギ				C	○	○	○
71			コゴメヤナギ				C	○		○
72			キツネヤナギ				D	○	○	○
73		カバノキ	ヤマハンノキ				D	○	○	○
74			アカシデ				D	○		○
75			ハシバミ				D	○	○	○
76		ブナ	カシワ				C		○	○
77			ウバメガシ				B	○	○	○
78		イラクサ	トキホコリ			VU	B	○		
79		タデ	ウナギツカミ				A		○	
80			ヒメタデ			VU	D	○	○	
81			アオヒメタデ			VU	C	○		
82			ホソバイヌタデ			NT	C	○		
83			ナガバノウナギツカミ			NT	C	○	○	
84			サデクサ				D	○		
85			ホソバノウナギツカミ				A		○	
86			ヌカボタデ			VU	C	○	○	
87			コギンギン			VU	C	○		
88		ナデシコ	カワラナデシコ				D	○	○	○
89			フシグロセンノウ				C	○		○
90			イトハコベ			VU	A	○	○	○
91	マツブサ	クスノキ	マツブサ				C	○		
92			ニッケイ			NT		○	○	○
93			ダンコウバイ				A	○		
94			アブラチャン				C	○	○	○
95		カツラ	カツラ				A	○		

表 2.1.5-19(3) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
96	被子植物 双子葉植物 離弁花類	キンポウゲ	ミチノクフクジュソウ			NT		○		
97			フクジュソウ				A	○		○
98			ミスミソウ			NT		○		
99			スハマソウ				C	○	○	○
100			イチリンソウ				C	○	○	○
101			キクザキイチゲ				A	○		
102			アズマイチゲ				B	○		
103			カザグルマ			NT	B	○		○
104			クサボタン				D	○		
105			ヒメキンポウゲ			VU	X	○		
106			オキナグサ			VU	A	○	○	○
107			コキツネノボタン			VU	B	○		
108			ヒキノカサ			VU	B	○	○	
109			ヒメバイカモ			EN	X	○		
110			ノカラマツ			VU	B	○		
111		メギ	イカリソウ				C	○	○	○
112		スイレン	オニバス			VU	B	○	○	
113			コウホネ				B	○		
114			ヒツジグサ				EW	○	○	
115		マツモ	マツモ				C	○	○	○
116		センリョウ	センリョウ				D	○		○
117		オトギリソウ	トモエソウ				C	○	○	○
118			アゼオトギリ			EN	A	○	○	○
119			ミズオトギリ				C	○	○	○
120		モウセンゴケ	ナガバノイシモチソウ			VU		○	○	
121			イシモチソウ			NT	A		○	
122			モウセンゴケ				C	○	○	
123		ケシ	ヤマエンゴサク				B	○	○	
124		アブラナ	イヌナズナ				C	○	○	○
125			コイヌガラシ			NT	D	○		○
126		マンサク	トサミズキ			NT				○
127		ベンケイソウ	キリンソウ				C		○	○
128			アズマツメクサ			NT	A	○		○
129		ユキノシタ	ネコノメソウ				D	○	○	○
130			ウメバチソウ				B	○	○	
131			タコノアシ			NT		○	○	○
132			イワガラミ				D	○		
133		バラ	タチゲヒメヘビイチゴ				C	○		○
134			カワラサイコ				C	○		
135			エドヒガン				A	○	○	
136			シロヤマブキ			EN		○		○
137			ハマナス				D		○	○
138			ナガボノシロワレモコウ				D	○	○	○
139		マメ	ホドイモ				D	○		○
140			フジキ				C	○		○
141			タヌキマメ				C	○	○	○
142			サイカチ				D	○	○	○
143			レンリソウ				C	○		○
144			イヌハギ			VU	C		○	○
145			マキエハギ				D	○		○
146			イヌエンジュ				D	○	○	○
147			オオバクサフジ				C			○

表 2.1.5-19(4) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
148	被子植物 双子葉植物 離弁花類	カタバミ	エゾタチカタバミ				C	○		○
149		フウロソウ	タチフウロ				D	○		○
150		トウダイグサ	ノウルシ			NT	C	○		
151		ミカン	フユザンショウ				C	○	○	○
152		モチノキ	ウメモドキ				C	○	○	○
153		ニシキギ	オニツルウメモドキ				C	○		
154		クロウメモドキ	クロウメモドキ				C	○	○	○
155		シナノキ	シナノキ				D	○		○
156		スマレ	ナガバノスマレサイシン				A		○	
157			タチスマレ			VU	A	○		
158			ヒナスミレ				B	○		
159		ウリ	ゴキヅル				D	○	○	○
160		ミソハギ	ヒメキカシグサ			CR	X	○	○	○
161			ミズキカシグサ			VU				○
162			ミズマツバ			VU	C		○	
163		ヒシ	ヒメビシ			VU	A	○	○	
164		アカバナ	ウスゲチョウジタデ			NT		○		○
165			ミズユキノシタ				B	○	○	○
166			ミズキンバイ			VU	B	○	○	○
167		アリノトウグサ	タチモ			NT	X	○		
168			フサモ				C	○	○	○
169		ウリノキ	ウリノキ				C	○		
170		ウコギ	トチバニンジン				D	○	○	○
171		セリ	エキサイゼリ			NT	A	○		
172			ミシマサイコ			VU	C	○		○
173			シムラニンジン			VU	A	○		
174			イブキボウフウ				C	○	○	○
175			ムカゴニンジン				C	○	○	○
176			サワゼリ			VU	C		○	○
177	合弁花類	リョウブ	リョウブ				D		○	○
178		イチヤクソウ	ウメガサソウ				C	○		○
179			ギンリョウソウ				C	○		
180		ツツジ	キヨスミミツバツツジ				C		○	○
181		サクラソウ	クサレダマ				C	○	○	○
182		マチン	アイナエ				C	○	○	○
183		リンドウ	ホソバリンドウ				B		○	
184			ハルリンドウ				B	○	○	
185			アケボノソウ				C	○		
186			イヌセンブリ			VU	B	○	○	
187			ツルリンドウ				C	○		○
188		ミツガシワ	ミツガシワ				B	○		
189			ガガブタ			NT	C	○	○	○
190			アサザ			NT	A	○		
191		キョウチクトウ	チョウジソウ			NT	X	○		○
192		ガガイモ	フナバラソウ			VU	B	○	○	○
193			クサナギオゴケ			VU	D	○	○	○
194			スズサイコ			NT	C	○		
195		アカネ	ヤブムグラ			VU	C	○		○
196			ハナムグラ			VU	C	○		
197			サツマイナモリ				C	○	○	○
198			ハクチョウゲ			EN		○		○

表 2.1.5-19(5) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
199	合弁花類	ヒルガオ	ネナシカズラ				A	○		
200		ムラサキ	イヌムラサキ				B	○		○
201			ムラサキ			EN	X	○		
202		アワゴケ	ミズハコベ				C	○		
203		シソ	カイジンドウ			VU	X	○	○	
204			ジュウニヒトエ				D	○	○	○
205			ツルカコソウ			VU		○	○	○
206			ケブカツルカコソウ				C	○	○	○
207			ミズネコノオ			NT	C		○	○
208			ミズトラノオ			VU	A	○	○	○
209			キセワタ			VU	C	○		
210			ヒメハッカ			NT	A	○	○	
211			ヒカゲヒメジソ				A	○		
212			ヤマジソ			NT	C	○		○
213			ヒキオコシ				A	○		○
214			ミゾコウジュ			NT	D	○	○	○
215			ヒメナミキ				D	○	○	○
216			イガタツナミソウ				B	○		
217		ナス	オオマルバノホロシ				C	○		
218		ゴマノハグサ	ゴマクサ			VU	B	○	○	○
219			マルバサワトウガラシ			VU	B	○		
220			サワトウガラシ				C	○	○	○
221			アブノメ				D	○	○	○
222			オオアブノメ			VU	A	○	○	
223			シソクサ				D	○	○	○
224			スズメハコベ			VU		○		○
225			ミゾホオズキ				C	○		○
226			シオガマギク				A	○		
227			ゴマノハグサ			VU	C	○		○
228			オオヒナノウスツボ				B	○		○
229			ヒキヨモギ				D	○	○	○
230			カワデシャ			NT		○	○	○
231		ゴマ	ヒシモドキ			EN	EW	○		
232		イワタバコ	イワタバコ				B	○		
233		ハマウツボ	オオナンバンギセル				C	○	○	○
234			オカウツボ				A	○		
235		タヌキモ	ノタヌキモ			VU	A	○		
236			タヌキモ			NT	B	○	○	
237			ミミカキグサ				A	○	○	
238			ホザキノミミカキグサ				B	○		
239			ヒメタヌキモ			NT	X	○	○	
240			ムラサキミミカキグサ			NT	B	○	○	
241		スイカズラ	ミヤマウグイスカグラ				A			○
242			ミヤマガマズミ				B	○		
243		オミナエシ	オミナエシ				D	○	○	○
244		キキョウ	ヤツシロソウ			EN				○
245			バアソブ			VU	B	○		
246			サワギキョウ				B	○	○	
247			キキョウ			VU	A	○	○	○

表 2.1.5-19(6) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
248	合弁花類	キク	ノコギリソウ				D			○
249			ノブキ				C	○	○	○
250			ヤマハハコ				C		○	○
251			カワラニンジン				D	○		
252			ヒメシオン				B	○		
253			ゴマナ				C	○	○	○
254			サワシロギク				A	○	○	
255			シオン			VU				○
256			タカアザミ				D	○	○	○
257			キセルアザミ				B	○	○	
258			アワコガネギク			NT	C	○		
259			アズマギク				A	○		
260			フジバカマ			NT	B	○	○	
261			アキノハハコグサ			EN	B	○	○	○
262			オグルマ				C	○	○	
263			ホソバオグルマ			VU	C	○	○	○
264			サクラオグルマ				RH	○		
265			カセンソウ				C	○	○	○
266			ノニガナ				C	○	○	○
267			ミコシギク			VU	X	○		
268			オオニガナ				C	○	○	○
269			キクアザミ				C	○		
270			オカオグルマ				C	○		
271			サワオグルマ				D	○	○	○
272			ハバヤマボクチ				C	○	○	○
273			オナモミ			VU	A	○	○	○
274	単子葉植物	オモダカ	サジオモダカ				B	○		
275			トウゴクヘラオモダカ			VU	C	○	○	○
276			アギナシ			NT	C	○		
277		トチカガミ	スブタ			VU	A	○	○	○
278			ヤナギスブタ				C	○	○	○
279			クロモ				C	○	○	○
280			トチカガミ			NT	C	○	○	○
281			ミズオオバコ			VU	C	○	○	○
282			セキショウモ				C	○		
283			コウガイモ				B	○	○	○
284		ヒルムシロ	ガシャモク			CR	A	○		
285			センニンモ				A	○		
286			ササバモ				D	○	○	○
287			ホソバミズヒキモ				B	○	○	○
288			ミズヒキモ				A	○		
289			ヤナギモ				D	○		○
290			ツツイトモ			VU	B	○		
291			リュウノヒゲモ			NT	C	○		
292			ヒロハノエビモ				A	○		
293			イトモ			NT	B	○	○	
294			インバモ				RH	○		○
295			カワツルモ			NT	B	○		
296			イトクズモ			VU	A			○

表 2.1.5-19(7) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
297	単子葉植物	イバラモ	ムサシモ			EN	A	○		
298			ホッスモ				B	○		○
299			イトトリゲモ			NT	B	○		
300			イバラモ				A	○		
301			トリゲモ			VU	C	○	○	○
302			オオトリゲモ				B	○	○	○
303		ユリ	ヤマラッキョウ				D	○	○	○
304			キジカクシ				C	○	○	○
305			カタクリ				B	○	○	○
306			トウギボウシ				D	○		○
307			ウバユリ				D	○	○	○
308			コオニユリ				C	○	○	○
309			ヒメイズイ				B			○
310			ワニグチソウ				C	○		○
311			ヤマジノホトトギス				B	○		
312			タイワンホトトギス			CR			○	○
313			アマナ				C	○	○	○
314		ヤマノイモ	カエデドコロ				A	○		
315		ミズアオイ	ミズアオイ			NT	C	○	○	○
316		アヤメ	ノハナショウブ				B	○	○	○
317			カキツバタ			NT	B	○	○	○
318			アヤメ				B	○	○	○
319		イグサ	ドロイ				B	○		
320			イヌイ				C	○	○	○
321			ヤマズメノヒエ				C	○	○	○
322			ヌカボシソウ				C	○		
323		ホシクサ	ホシクサ				D	○	○	○
324			イトイヌノヒゲ				D	○	○	○
325			ニッポンイヌノヒゲ				D	○	○	○
326			クロヒロハイヌノヒゲ				D	○	○	○
327		イネ	ハネガヤ				C	○	○	○
328			ヒメコヌカグサ			NT	C	○	○	○
329			ノゲヒメコヌカグサ				C	○		○
330			チョウセンガリヤス				D	○		
331			カリマタガヤ				D	○		○
332			コゴメカゼクサ				X	○	○	○
333			オオニワホコリ				D	○		
334			ヒメウキガヤ				D	○	○	○
335			ウキガヤ				B	○		○
336			ミノボロ				C		○	○
337			チャボチヂミザサ				D	○	○	○
338			アワガエリ				X	○		
339			ツルヨシ				C	○		
340			ハマヒエガエリ				B	○		
341			ウキシバ				C	○	○	○
342			イヌアワ				D	○		
343			ヒゲシバ				A	○		
344			スナシバ				RH		○	
345		サトイモ	ムサシアブミ				A		○	○
346		ウキクサ	コウキクサ				B		○	○

表 2.1.5-19(8) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
347	単子葉植物	ミクリ	ミクリ			NT	D	○	○	○
348			アズマミクリ			VU	A	○		
349			タマミクリ			NT		○		
350			ナガエミクリ			NT	B	○		○
351			ヒメミクリ			VU	A	○	○	
352		カヤツリグサ	ハタガヤ				D	○		○
353			ショウジョウスゲ				A	○		
354			ハリガネスゲ				C	○	○	○
355			ジョウロウスゲ			VU	D	○		
356			チャシバスゲ				B	○	○	○
357			ミヤマシラスゲ				D	○		
358			ナルコスゲ				C	○	○	○
359			ウマスゲ				B	○		
360			オキナワジュズスゲ				D	○	○	○
361			ムジナスゲ				A	○	○	
362			オオアオスゲ				D	○	○	
363			チュウゼンジスゲ				D	○	○	○
364			ヤガミスゲ				D	○		
365			タチスゲ				D	○		○
366			ヌマクロボスゲ			VU	A	○	○	
367			ヌカスゲ				D	○	○	○
368			ヒメシラスゲ				D	○		○
369			オタルスゲ				D	○	○	○
370			エゾツリスゲ				A	○	○	○
371			ヒメゴウソ				D	○	○	○
372			イトアオスゲ				C	○		
373			シラコスゲ				D	○	○	○
374			ヤブスゲ				C	○	○	○
375			オオクグ			NT	D	○	○	○
376			センダイスゲ				D	○	○	○
377			タガネソウ				D	○	○	○
378			ムジナクグ				RH		○	
379			オニナルコスゲ				D	○	○	
380			カンエンガヤツリ			VU	D	○		
381			ヒメアオガヤツリ				D	○		
382			キンガヤツリ				B	○	○	○
383			セイタカハリイ				D	○	○	○
384			ヤリハリイ				A	○		
385			スジヌマハリイ			VU	D	○	○	○
386			ヒメヌマハリイ				D	○	○	
387			ヌマハリイ				B	○	○	
388			コツブヌマハリイ			VU	C	○	○	○
389			マシカクイ				B	○	○	
390			ミツカドシカクイ				A	○	○	
391			ヒメシカクイ				RH	○	○	
392			コアゼテンツキ				C	○	○	○
393			オオアゼテンツキ				D	○		
394			ノテンツキ				D	○	○	
395			イソヤマテンツキ				D	○	○	○
396			ハタケテンツキ			EN	A	○		
397			トネテンツキ			VU	D	○		
398			イトイヌノハナヒゲ				A	○		

表 2.1.5-19(9) 重要な種（維管束植物）

No.	分類	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
399	単子葉植物	カヤツリグサ	ヒメイヌノハナヒゲ				B	○		
400			オオイヌノハナヒゲ				A		○	○
401			ノグサ				D	○	○	
402			コマツカサススキ				B	○		
403			イガホタルイ				RH	○		
404			サンカクホタルイ				RH	○	○	
405			コホタルイ				A	○		
406			ヒメホタルイ				C	○		
407			タタラカンガレイ				D	○	○	○
408			タイワンヤマイ				C	○	○	
409			アイバソウ				C	○	○	○
410			ヒゲアブラガヤ				C	○		
411			カガシラ			VU	A		○	
412			コシンジュガヤ				B	○	○	
413			オオフトイ				D		○	○
414		ラン	シラン			NT	C	○	○	○
415			マメヅタラン			NT	B	○	○	○
416			ムギラン			NT	A	○	○	○
417			エビネ			NT	D	○	○	○
418			ギンラン				D	○	○	○
419			キンラン			VU	D	○	○	○
420			ササバギンラン				D	○	○	○
421			サイハイラン				D	○	○	○
422			マヤラン			VU	C	○		○
423			サガミラン				C	○	○	○
424			クマガイソウ			VU	B	○	○	○
425			カキラン				A	○		
426			タシロラン			NT	C	○		
427			オニノヤガラ				A	○		○
428			クロヤツシロラン				C	○		○
429			アキザキヤツシロラン				B	○		
430			ミヤマウズラ				D	○	○	○
431			シュスラン				C	○		
432			サワトンボ			EN	A		○	
433			サギソウ			NT	A	○	○	
434			ミズトンボ			VU	A	○		
435			ムヨウラン				B	○		
436			クロムヨウラン				C	○		
437			ジガバチソウ				A		○	
438			クモキリソウ				C	○	○	○
439			ヨウラクラン				D	○	○	○
440			ミズチドリ				B		○	
441			ツレサギソウ				B	○		
442			ヤマサギソウ				B	○		○
443			コバノトンボソウ				B	○		
444			トキソウ			NT	B	○	○	
445			ヤマトキソウ				X	○		○
446			ヒトツボクロ				A		○	
447			トンボソウ				B	○		○
合計	-	99 科	447 種	0 種	0 種	132 種	428 種	405 種	255 種	253 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「植物目録 1987」（昭和 62 年 環境庁）に準拠した。

※2 選定基準の表記は、表 2.1.5-18 参照。

(イ) 蘚苔類

生育情報が得られた蘚苔類のうち重要な種は、表 2.1.5-20 に示す 2 綱 3 目 3 科 3 種であった。

表 2.1.5-20 重要な種（蘚苔類）

No.	綱名	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
					1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	蘚	ミズゴケ	ミズゴケ	コアナミズゴケ				A-B		○	
2		ホンマゴケ	ハリガネゴケ	オオカサゴケ				C	○		
3	苔	ゼニゴケ	ウキゴケ	イチョウウキゴケ				D	○	○	○
合計	2 綱	3 目	3 科	3 種	0 種	0 種	0 種	3 種	2 種	3 種	1 種

※1 種名および配列等は、基本的に「日本の野生植物 コケ」（平成 13 年 岩月善之助編）に、各属の所属する科名と和名については、蘚類は「New catalog of the mosses of Japan.」（平成 16 年 Iwatsuki）、苔類のウキゴケ属は「日本産ウキゴケ属 Riccoa 節の分類学的研究」（平成 26 年 富永・古木）、それ以外は「日本産タイ類ツノゴケ類チェックリスト」（平成 24 年 片桐・古木）に準拠した。

※2 選定基準の表記は、表 2.1.5-18 参照。

(ウ) 地衣類

生育情報が得られた地衣類のうち重要な種は、表 2.1.5-21 に示す 1 目 1 科 2 種であった。

表 2.1.5-21 重要な種（地衣類）

No.	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
				1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	レノカラ	ウメノキゴケ	コフクレサルオガセ				D	○		
2			アカサルオガセ				D	○		
合計	1 目	1 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	2 種	0 種	0 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本産地衣類の分類体系」（平成 19 年 吉村ほか）、「日本産地衣類および関連菌類のチェックリスト」（平成 16 年 原田ほか）に準拠した。

※2 選定基準の表記は、表 2.1.5-18 参照。

(I) 大型菌類（キノコ類）

生育情報が得られた大型菌類のうち重要な種は、表 2.1.5-22 に示す 1 綱 3 目 6 科 7 種であった。

表 2.1.5-22 重要な種（大型菌類）

No.	綱名	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
					1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	ハラ タケ	ハラタケ	キシメジ	ハマシメジ				D	○		
2			テングタケ	カバイロコナテン グタケ				C	○		
3				シロテングタケ				D	○		
4			オニイグ チ	オオヤシャイグチ				D	○		
5			イグチ	ムラサキヤマドリタケ				D	○		
6		サルノコ シカケ	サルノコシ カケ	ブクリョウ				D	○		
7		ベニタケ	ベニタケ	ヒロハシデチチタケ				D	○		
合計	1 綱	3 目	6 科	7 種	0 種	0 種	0 種	7 種	7 種	0 種	0 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「原色日本新菌類図鑑Ⅰ、Ⅱ」（昭和 62 年、昭和 64 年 今関・本郷）に準拠した。

※2 選定基準の表記は、表 2.1.5-18 参照。

(ア) 大型藻類（紅藻・車軸藻）

生育情報が得られた大型藻類のうち重要な種は、表 2.1.5-23 に示す 2 綱 3 目 3 科 16 種であった。

表 2.1.5-23 重要な種（大型藻類）

No.	綱名	目名	科名	種名（和名）	選定基準				対象市町村		
					1	2	3	4	成田市	多古町	芝山町
1	紅藻	オオイシソウ	オオイシソウ	オオイシソウ			VU	D	○	○	○
2				インドオオイシソウ			CR+EN		○		○
3				ムカゴオオイシソウ			CR+EN		○		○
4		カワモズク	カワモズク	カワモズク			VU	D	○	○	○
5				チャイロカワモズク			NT	D	○	○	
6				アオカワモズク			NT	D	○	○	○
7				Batrachospermum graibussoniense				D	○	○	○
8	車軸藻	車軸藻	シャジクモ	シャジクモ			VU	D	○	○	○
9				オオシャジクモ				X	○		
10				ケナガシャジクモ			CR+EN	A-B	○		
11				カタシャジクモ			CR+EN	A-B	○		
12				ヒメカタシャジクモ				A-B	○		
13				ハダシシャジクモ			CR+EN	A-B	○		
14				チャボフラスコモ			CR+EN	A-B	○		
15				オトメフラスコモ			CR+EN	A-B	○		
16				ホシツリモ			CR+EN	A-B	○		
合計	2 綱	3 目	3 科	16 種	0 種	0 種	13 種	14 種	16 種	6 種	7 種

※1 種名及び配列等は、基本的に「日本淡水藻類図鑑」（昭和 52 年 広瀬弘幸）、シャジクモフィールドガイド（平成 23 年 独立行政法人国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター）に準拠した。

※2 選定基準の表記は、表 2.1.5-18 参照。

(カ) 付着藻類

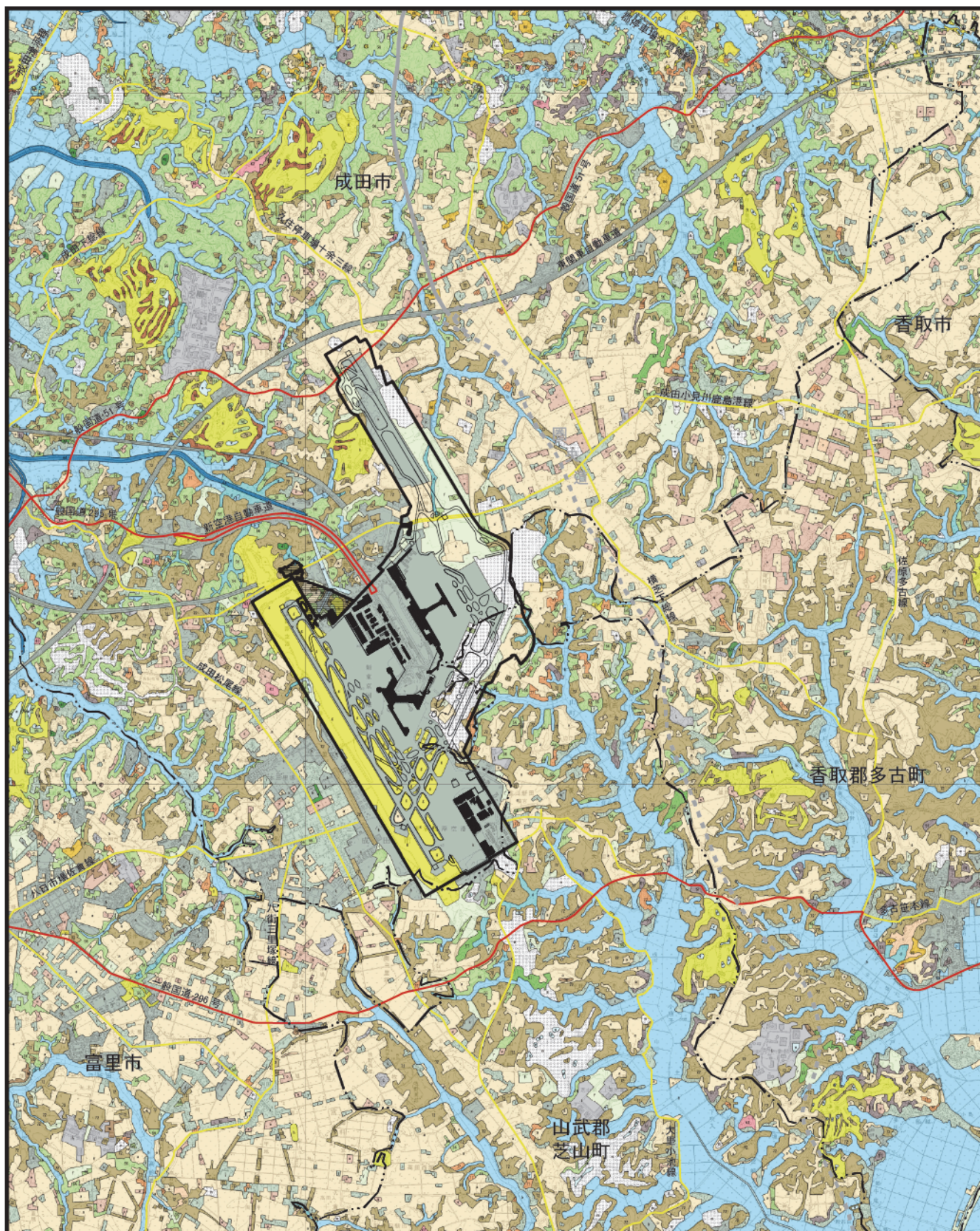
生育情報が得られた付着藻類には重要な種はなかった。

ウ. 植生

環境省によると、日本の植生は、自然植生の構成種の名をとって4つのクラス域に大別されている^{注)}。整備実施区域及びその周囲は全域ヤブツバキクラス域に属している。また、当該地域の潜在自然植生は大部分がスダジイ、シラカシ等から構成される常緑広葉樹林であると考えられるが、古くから人為の影響が加わり、常緑広葉樹の自然林は現状では社寺林や屋敷林として断片的にわずかに残っている程度である。

整備実施区域及びその周囲の現存植生図は、図 2.1.5-2 に示すとおりである。台地上は、畑雑草群落が大部分を占めており、谷部の谷津周辺は水田雑草群落が広く分布している。また、台地の斜面部には、スギ、ヒノキの植林やコナラ等の落葉広葉樹二次林、竹林等が主に分布している。

^{注)} 日本の植生は、自然植生の構成種の名をとって、高山帯域（高山草原とハイマツ帯）、コケモモトウヒクラス域（亜高山針葉樹林域）、ブナクラス域（落葉広葉樹林域）、ヤブツバキクラス域（常緑広葉樹林域）の各クラス域に大別されている。この「クラス域」とは、広域に分布し景観を特徴づけている自然植生によって植物社会学的に定義されたもので、主要なクラスの生育域のことを指している。



凡 例

- 市町界
- 成田国際空港
- ▨ 整備実施区域

凡例は図2.1.5-2(2)に示す。

図2.1.5-2(1) 現存植生図

資料：「自然環境調査Web-GIS 植生調査第6-7回（1999～2012/2013～）植生図」
（環境省 自然環境局 生物多様性センター）



	41	ヤブコウジースダジイ群集
	51	シイ・カシ二次林
	52	ケヤキーシラカシ群落
	56	クヌギーコナラ群集
	57	オニシバリーコナラ群集
	80	低木群落
	61	ススキ群団（V I I）
	62	アズマネザサーススキ群集
	63	伐採跡地群落（V I I）
	64	ヨシクラス
	72	スギ・ヒノキ・サワラ植林
	73	アカマツ植林
	76	その他植林
	77	竹林
	78	モウソウチク林
	h	ゴルフ場・芝地
	g	牧草地
	f	路傍・空地雑草群落
	c	放棄畑雑草群落
	e	果樹園
	a	畑地雑草群落
	b	水田雑草群落
	d	放棄水田雑草群落
	k	市街地
	i	緑の多い住宅地
	L	工場地帯
	m	造成地
	w	開放水域

図 2.1.5-2(2) 現存植生図凡例

I. 重要な群落

重要な群落の選定基準は表 2.1.5-24 に、整備実施区域及びその周囲に分布する重要な植物群落は、表 2.1.5-25 及び図 2.1.5-3 に示すとおりである。

表 2.1.5-24 重要な群落の選定基準

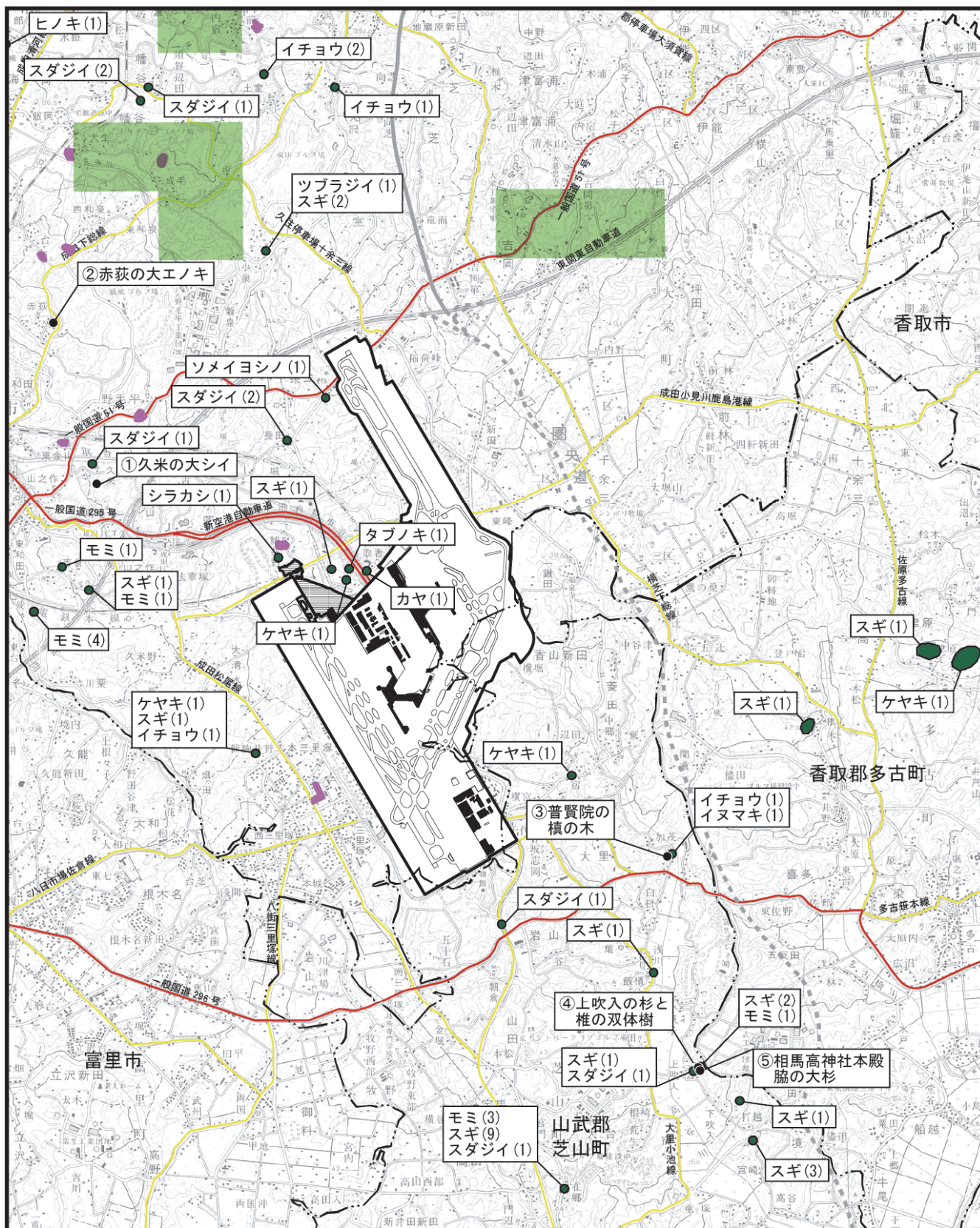
No.	選定基準	
1	文化財保護法	「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)による国指定の天然記念物 特天：特別天然記念物 天：天然記念物 「千葉県文化財保護条例」(昭和30年 条例第8号)による県指定の天然記念物 「成田市文化財の保護に関する条例」(昭和42年 条例第17条)による市指定の天然記念物 「多古町文化財の保護に関する条例」(昭和32年 条例第9条)による町指定の天然記念物 「芝山町文化財の保護に関する条例」(昭和48年 条例第11条)による町指定の天然記念物
2	特定植物群落	「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年 環境庁) A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群 C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの G：乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群 H：その他、学術的に重要な植物群落または個体群
3	保護上重要な植物群落	「千葉県の保護上重要な野生生物 植物編」(平成11年 千葉県) 自 然 性：自然林または自然草原と判断された群落 特 殊 な 立 地：特殊な立地に成立する群落 RDB種の存否：RDB種を1種類以上含む群落
4	自然植生	「1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」(環境省自然環境局生物多様性センター報道発表資料)(平成28年3月31日 環境省) 自然林：自然度9 自然草原：自然度10
5	巨樹・巨木林	「第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成13年 環境省)

表 2.1.5-25 重要な植物群落

No.	選定基準	名称等
1	県・市町指定天然記念物	①久米の大シイ
		②赤荻の大エノキ
		③普賢院の槇の木
		④上吹入の杉と椎の双体樹
		⑤相馬高神社本殿脇の大杉
2	特定植物群落	成田市 麻賀多神社の森（選定基準：E）
		成田市 小御門神社の森（選定基準：F）
3	千葉県 重要な植物群落	オギ群落、オニナルコスゲ群落、シロネ群落、スギ群落、ススキ群落、スタジイ群落、ハンノキ群落、ヒメガマ群落、マコモ群落、マダケ群落、モミ群落、ヨシ群落
4	自然植生	自然度9：ヤブコウジースタジイ群集
5	巨樹・巨木林	アブラギリ1件、イチヨウ7件、イヌマキ1件、カヤ3件、クスノキ2件、クロマツ4件、ケヤキ11件、シイノキ1件、シラカシ1件、スギ41件、スタジイ25件、ソメイヨシノ1件、タブノキ4件、ツブラジイ1件、トウカエデ1件、ヒノキ2件、プラタナス2件、モミ10件、計118件

※1 千葉県 重要な植物群落におけるそれぞれの群落の位置は不明である。

※2 網掛けは図枠内に位置することを示す。



凡 例

- | | | | |
|--|--------|---|------------------------|
| — · — · — | 市町界 | | 自然植生
(ヤブコウジ・スダジイ群集) |
| | 成田国際空港 | | 重要な植物群落 (千葉県) |
| | 整備実施区域 | ● | 県・市町の天然記念物 |
| | | ●/■ | 巨樹・巨木林 |

資料：「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物編」（平成11年千葉県環境部自然環境課）
「生物多様性情報システム―自然環境保全基礎調査―」（環境省 自然環境局 生物多様性センター）
（特定植物群落調査 第2・3・5回、・植生調査（植生図）第6・7回、・巨樹巨木林調査 第4・6回）
「千葉県の文化財の指定状況」（現在千葉県教育委員会ホームページ 平成29年11月閲覧）
「成田市内指定文化財一覧表」（成田市ホームページ 平成29年11月閲覧）
「多古町資料」（平成22年10月時点多古町教育委員会）、：「芝山町資料」（平成22年10月時点芝山町教育委員会）

図2.1.5-3 重要な植物群落位置図

注）重要な植物群落は図枠内のみ表示した。



(3) 生態系の状況

整備実施区域及びその周囲は、千葉県北部、下総台地に位置し、標高約 40m 前後の低海拔地である。地形としては、下総台地の平坦地、その肩部や斜面等比較的緩やかな地形で構成されている。台地部は、関東ローム層に覆われた火山灰台地で構成されており、土壌は火山灰を母材とした黒ボク土が主体である。谷地形の場所では、その多くが谷津田として利用されている。気候帯は暖温帯であり、植生帯はヤブツバキクラス域に属している。

整備実施区域及びその周囲の生態系の模式を図 2.1.5-4 に示す。

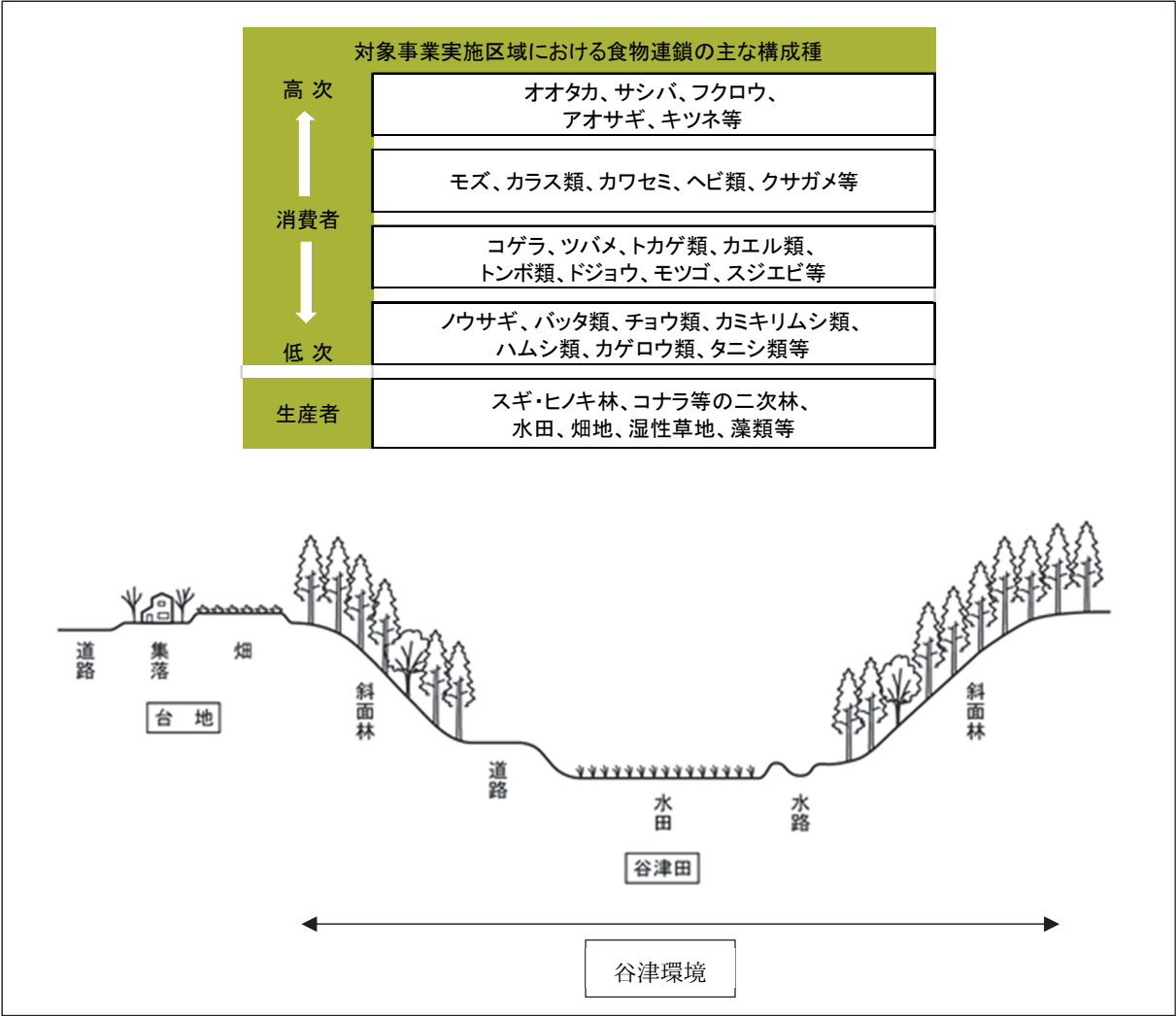


図 2.1.5-4 整備実施区域及びその周囲の生態系模式図

2.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

(1) 景観

整備実施区域及びその周囲は、下総台地に位置し、標高 40m 前後の台地と、台地に深く入り組んでいる谷津及び台地と谷津を結ぶ斜面が組み合わされた地形をなしている。この地形は下総台地とその周辺部を代表する景観のひとつであり、台地上には畑が、斜面には斜面林が谷津には水田が形成されている。

千葉県における景観資源は以下のとおりである。各景観資源の位置は図 2.1.6-1 に示す。

○郷土環境保全地域

- ・麻賀多神社の森郷土環境保全地域（成田市）
- ・小御門神社の森郷土環境保全地域（成田市）
- ・大慈恩寺の森郷土環境保全地域（成田市）

○自然公園

- ・県立九十九里自然公園（山武市、横芝光町 他）
- ・県立印旛手賀自然公園（成田市）

○日本の自然景観

- 湖沼
 - ・乾草沼（横芝光町）
 - ・坂田ヶ池（成田市）
 - ・坂田池（横芝光町）
- 湿原
 - ・殿下・南川岸湿地（横芝光町）
 - ・中村新田湿地（横芝光町）

○ちば文化的景観

- ・成田山新勝寺の門前町景観（成田市）
- ・印旛沼とその周辺の里山景観（成田市 他）
- ・山武市の山武杉のある景観（山武市）
- ・多古町栗山川流域の谷津田景観（多古町）

○日本遺産

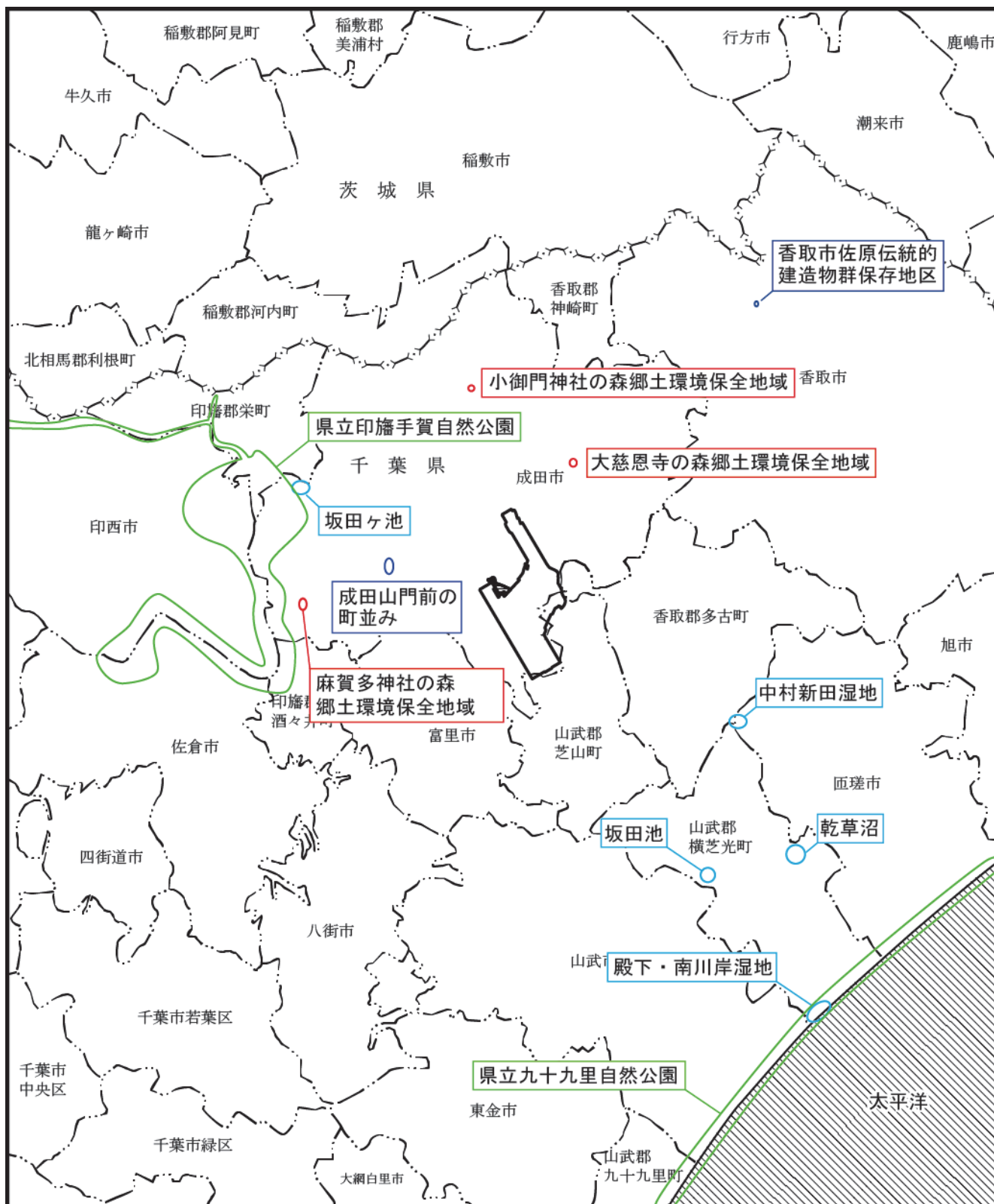
（北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み）

- ・成田山門前の町並み（成田市）
- ・香取市佐原伝統的建造物群保存地区（香取市）

※1 ちば文化的景観については、詳細な位置が設定されていないことから、図は割愛した。

※2 日本遺産は町並みのみを抽出した。

※3 網掛けは図枠内に位置することを示す。

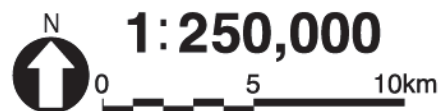


凡 例

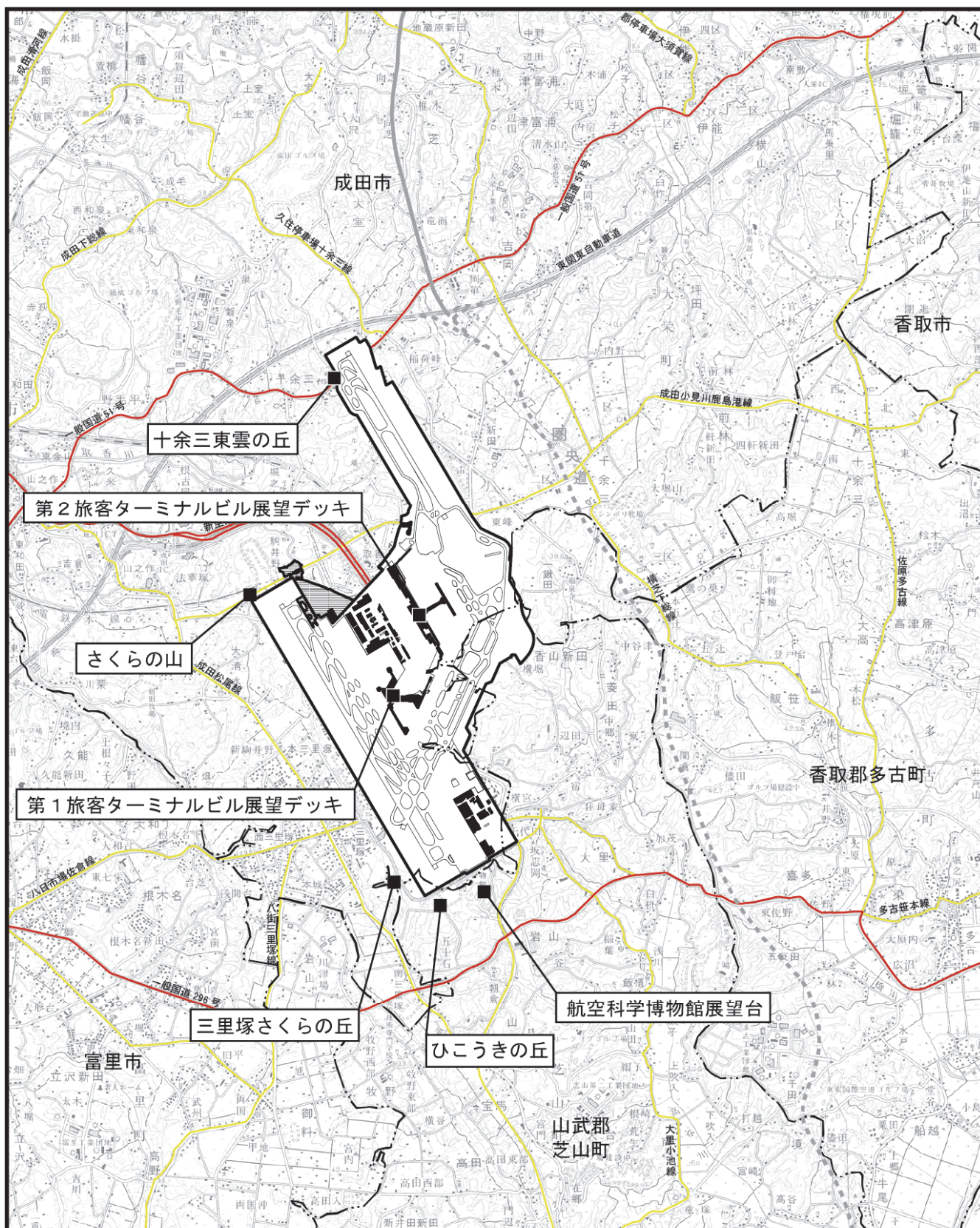
- 県 界
- 市区町村界
- 成田国際空港
- 整備実施区域
- 郷土環境保全地域
- 自然公園
- 日本の自然景観
- 日本遺産

図2.1.6-1 景観資源位置図

資料：「自然環境保全地域の指定状況」（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「千葉県の自然公園一覧表」（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「日本の自然景観 南関東版（第3回自然環境保全基礎調査）」（平成元年9月 環境庁）
 ：「自然景観資源調査」（環境省自然環境局 生物多様性センターホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「「ちば遺産100選」と「ちば文化的景観」（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「「北総四都市江戸紀行」日本遺産に認定！」（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）



眺望地点に関しては、整備実施区域及びその周囲の地形が基本的に平坦であるため、空港を眺望できる地点としては、図 2.1.6-2 に示すとおり、空港内では第 1 旅客ターミナルビル展望デッキ、第 2 旅客ターミナルビル展望デッキ、空港近傍では航空科学博物館展望台といった地点が挙げられる。また、さくらの山、三里塚さくらの丘、十歳三東雲の丘、ひここの丘は、航空機の発着の様子を眺望することができるスポットとなっている。



凡 例

市町界

成田国際空港

整備実施区域

主要な眺望点

図2.1.6-2 対象事業実施区域及びその周囲の眺望地点

資料：「FEEL成田」
 (成田市観光協会ホームページ 平成29年11月閲覧)
 : NAA資料

N
 1:75,000
 0 1 2km

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

空港周辺市町の人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 2.1.6-1 に、整備実施区域及びその周囲における人と自然との触れ合いの活動の場の位置は図 2.1.6-3 に示すとおりである。

整備実施区域及びその周囲には、大慈恩寺の森といった郷土環境保全地域に指定された地域がある。これらは、郷土的に特色があり、地域住民に親しまれてきた由来のある樹木が保全され、良好な自然環境を有している。

なお、人工的な改変が多少なされているが、特に子供たちが自然と触れ合うことのできる場所として運動の森自然公園（フィールドアスレチック）などがある。

表 2.1.6-1 人と自然との触れ合いの活動の場

市町名	図中番号	人と自然との触れ合いの活動の場
成田市	1	さくらの山
	2	三里塚記念公園
	3	緑と水の公園（グリーンウォーターパーク）
	4	運動の森自然公園 成田エアポートコース（フィールドアスレチック）
	5	十余三東雲の丘
	6	大慈恩寺の森（歴史の森公園）
	7	三里塚さくらの丘
	8	南三里塚遊歩道
	9	長田地区里山
	10	里山遊歩道
	11	場外放水路水辺環境
芝山町	12	香山新田里山施設
	13	大関台果樹園
	14	芝山観光竹の子園
	15	ひこうきの丘
	16	芝山水辺の里
	17	朝倉やすらぎの杜
	18	グリーンポート エコ・アグリパーク
	19	芝山湧水の里

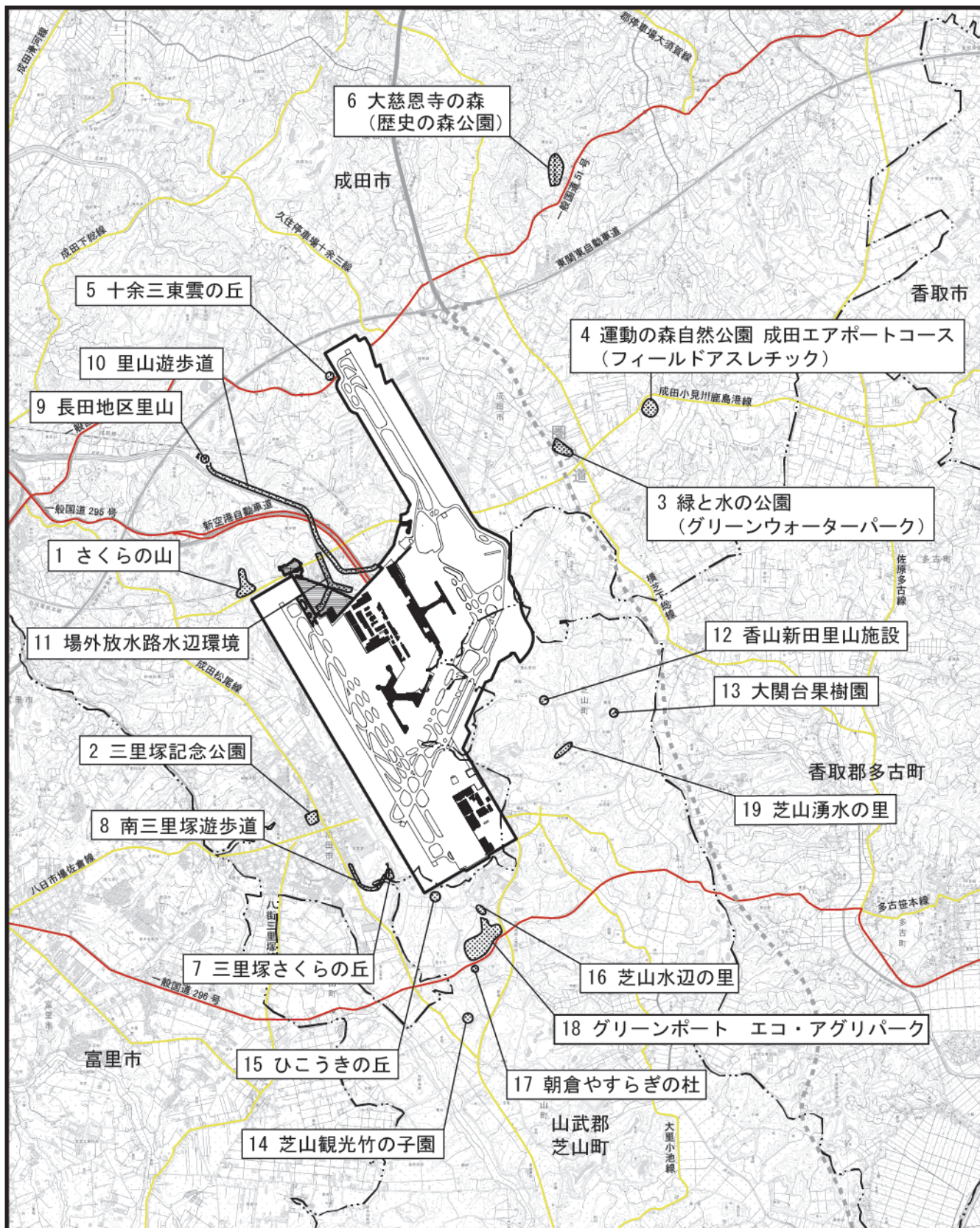
資料：「FEEL成田」（成田市観光協会ホームページ 平成29年11月閲覧）

：「市内の公園」（成田市ホームページ 平成29年11月閲覧）

：「なりた子育てガイドブック（平成29年6月）」（成田市ホームページ 平成29年11月閲覧）

：「観光・歴史 自然」（芝山町ホームページ 平成29年11月閲覧）

：「空港の近くに、あふれる緑。」（平成28年4月 NAA）



凡 例

市町界

成田国際空港

整備実施区域

人と自然との触れ合いの活動の場

図2.1.6-3 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

資料：「FEEL成田」（成田市観光協会ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「市内の公園」（成田市ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「なりた子育てガイドブック（平成29年6月）」
 （成田市ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「観光・歴史 自然」（芝山町ホームページ 平成29年11月閲覧）
 ：「空港の近くに、あふれる緑。」（平成28年4月 NAA）

N
 1:75,000
 0 1 2km

2.1.7 一般環境中の空間放射線量の状況

東日本大震災後の福島第一原子力発電所事故以降、千葉県内では、柏市、印西市等で空間放射線量が観測されている。

整備実施区域及びその周囲の空間放射線量は、図 2.1.7-1 に示す成田空港A地点（NAA情報通信センタービル5階屋上北側 設置地上高 25.3m）及びB地点（B滑走路南側緑地帯：設置地上高 1m）で観測していたが、平成 28 年度をもって公表を終了した。

整備実施区域周囲にモニタリングポストによる観測地点^{注)}は無いが、千葉県内には表 2.1.7-1 及び図 2.1.7-1 に示す 8 箇所のモニタリングポストによる観測地点がある。

表 2.1.7-1 空間放射線量測定地点（モニタリングポスト）

測定主体	測定地点	施設名称	住所	地面の形状	測定高さ
原子力 規制 委員会	市原市岩崎西	環境研究センター	市原市岩崎西1-8-8	コンクリート	7.0m
	柏市大室	柏市立田中小学校	柏市大室1256	土	1.0m
	市川市大野町	市川市立大柏小学校	市川市大野町2-1877	土	1.0m
	印西市高花	印西市立船穂中学校	印西市高花1-3	土	1.0m
	香取市羽根川	小見川区事務所	香取市羽根川55-5	アスファルト	1.0m
	茂原市高師	県立茂原高等学校脇	茂原市高師1247-6	土	1.0m
	館山市亀ヶ原	安房農業化医療センター跡地	館山市亀ヶ原754	アスファルト	1.0m
千葉県	旭市二	海匠地域振興事務所	旭市二1997-1	コンクリート	10.0m
N A A	成田空港A地点	NAA情報通信センタービル5階屋上北側	—	コンクリート	25.3m
	成田空港B地点	B滑走路南側緑地帯	—	土	1.0m

※1 旭市二のモニタリングポストは、平成 28 年 8 月 31 日をもって測定を終了し、9 月 2 日に廃止した。

※2 成田空港の放射線測定は、平成 28 年度で公表を終了した。

資料：「モニタリングポストによる空間放射線量の測定について」（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）

： N A A 資料

注) 空間放射線量の測定は千葉県及び県内市町村で可搬式空間放射線量測定器等による測定も実施されているが、モニタリングポストにより毎日定期的に測定されている結果のみを対象とした。



凡 例

図2.1.7-1 空間放射線量測定地点



成田国際空港



測定地点（原子力規制委員会）



測定地点（千葉県）（平成28年9月廃止）



測定地点（NAA）

資料：「モニタリングポストによる空間放射線量の測定について」
（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）
： NAA資料

2012 年度（平成 24 年度）から 2016 年度（平成 28 年度）までの空間放射線量の観測結果は、表 2.1.7-2 及び図 2.1.7-2 に示すとおりであり、毎時 0.23 マイクロシーベルト（「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」に基づく基本方針で、長期的な目標として追加被ばく線量が年間 1 ミリシーベルト以下になることが掲げられており、それに相当する値）を超えたことはなく、横ばいか年度毎に徐々に減少している。

表 2.1.7-2 空間放射線量の経年変化

測定主体	測定地点	測定結果（1 時間値の年平均値）（マイクロシーベルト）				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
原子力規制委員会	市原市岩崎西	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
	柏市大室	0.11	0.09	0.08	0.07	0.07
	市川市大野町	0.09	0.08	0.06	0.06	0.05
	印西市高花	0.14	0.09	0.08	0.07	0.06
	香取市羽根川	0.08	0.07	0.07	0.07	0.07
	茂原市高師	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04
	館山市亀ヶ原	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
千葉県	旭市二	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03
N A A	成田空港A地点	0.05	0.04	0.04	0.04	—
	成田空港B地点	0.07	0.06	0.06	0.05	—

※1 旭市二のモニタリングポストは、平成28年8月31日をもって測定を終了し、9月2日に廃止となった。

※2 成田空港の測定地点については、東日本大震災の福島原子力発電所の事故以降、測定値を公開していたが、昨今数値に変化が無く、安定して推移していたことから、平成28年12月21日をもって公開終了とした。

資料：「モニタリングポストによる空間放射線量の測定について」（千葉県ホームページ 平成29年11月閲覧）

：N A A 資料

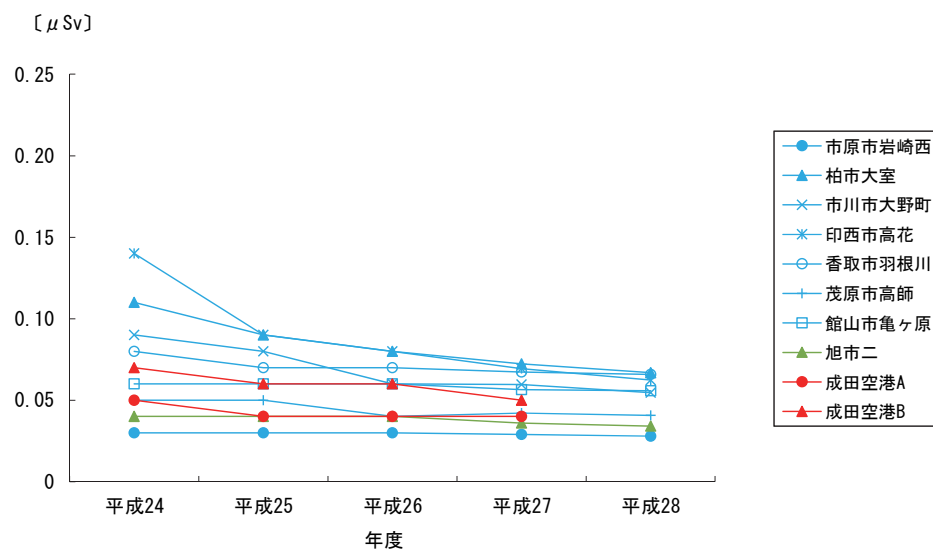


図 2.1.7-2 空間放射線量の経年変化